

「イントロダクション」

黙1:3、22:7

1. はじめに

(1) 黙示録は難解な書だと考えられている。

- ①象徴的言葉が多い。
- ②さまざまな解釈が存在する。
- ③結局、本当のところは誰も分からないということになる。

(2) 黙示録は、一般に考えられているほど難解な書ではない。

- ①象徴的言葉の解釈を確立する。
- ②解釈上さまざまなアプローチがあることを理解する。
- ③最も信頼性のあるアプローチを採用する。

(3) 本文の解説に入る前に、黙示録を理解するために必要不可欠な情報を分かち合う。

2. アウトライン

- (1) 著者と受取人
- (2) 解釈のための4つのアプローチ

3. 結論：黙示録を学ぶ目的

黙示録のイントロダクションを学ぶ

I. 著者と受取人

1. 著者は、使徒ヨハネである。

(1) 内的証拠

- ①黙1:1、4、9

Rev 1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。

Rev 1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。今いまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、

Rev 1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。

(2) 外的証拠：2世紀の教会指導者たちがこれを認めている。

①殉教者ユスティノス

- *100-165年頃に活躍。職責はないが、巡回伝道者、キリスト教の護教者。
- *『ユダヤ人トリュフォンとの対話』：ユスティノスの聖書解釈を示す著作。

②エイレナイオス

- *2世紀の活躍したキリスト教理論家であり、リオンの司祭である。
- *彼は、御国の預言を比喩的に解釈することに対して警告を発している。

③アレクサンドリアのクレメンス

- *2世紀に活躍した初期キリスト教を代表する神学者。
- *ギリシア教父と呼ばれる一群の神学者の一人。
- *オリゲネスとならんでアレクサンドリア学派の代表的な神学者である。

④テルトリアヌス

- *160-220年頃に活躍した神学者。
- *いわゆるラテン教父の系統に属する最初の人物。
- *異教、ユダヤ教、異端に対してキリスト教を弁護する働きに生涯を捧げた。
- *神の本質を説明するために「三位一体」という用語を作り出した。

(3) ヨハネはエーゲ海のパトモス島に島流しになっていた。

①イエス・キリストのメッセージを伝えたことで、有罪となった。

Rev 1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。

②この島で、ヨハネは啓示を受け取った。

③この書が書かれたのは、紀元95年頃である。

2. 受取人は、迫害下にあつて苦しんでいた信者たちである。

(1) イエス・キリストの十字架と復活から、約65年後のことである。

- ①この時代のクリスチャンたちは、そのほとんどが第2世代の信者たちであった。
- ②それゆえ、迫害は彼らの信仰にとって脅威となった。
- ③ローマ帝国は、キリスト教に対する敵意をますます強めつつあった。

(2) 迫害下にあつて、殉教の死を遂げた者もいた。

Rev 2:13 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあ

あなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。

(3) そこでヨハネは、迫害に直面している信者たちを励ますために、この書を書いた。

①黙示録は、忍耐をもって迫害を耐え忍ぶようにとの勧めである。

②黙示録は、終わりの日には、悪は必ず滅ぼされるという預言である。

II. 解釈のための4つのアプローチ

はじめに

(1) 黙示録に関しては、さまざまな解釈が提唱されてきた。

(2) 黙示録が人間の作品の寄せ集めであるなら、混乱をもたらすだけの書で終わる。

(3) 黙示録が神の靈感を受けて書かれた神の啓示の書だとすると、私たちは人知では計り知ることのできない未来の出来事に関する情報、また、永遠の世界に関する情報を得たことになる。

(4) 私たちの前提：

①黙示録は神の靈感を受けて書かれた神の啓示の書である。

②聖書の他の書と同じように、黙示録も字義通りに解釈する必要がある。

*字義通りの解釈とは、著者の意図を探し当てる作業である。

③黙示録に出てくる「言葉使い」や「象徴」は、他の聖書箇所での使用法に照らしてその意味を判断する必要がある。

④以上を総合すると、私たちは、ディスペンセーションリズムに基づく、千年期前再臨説、患難期前携挙説に立って、黙示録を解釈するということである。

(5) 黙示録を神の啓示の書と認めても、まだ解釈上の問題は残る。

①教会史上、4つのアプローチが提唱されてきた。

1. 歴史主義的アプローチ

(1) 黙示録は、紀元1世紀からメシアの再臨に至るまでの教会史の預言的パノラマを提供している。

(2) このアプローチは、紀元4世紀に誕生した。

①当時の教会が置かれていた状況と聖書預言の間に相関関係があると見た学者が、この説を提唱した。

(3) フィオーレのヨアキム（1135 - 1202年）は、歴史を3つの時代に区分した。

①父の時代、子の時代、聖霊の時代

(4) 宗教改革者たちもこの説を支持した。

①彼らは、カトリックの法王を反キリストと見なした。

②その根拠は、黙示録13章の2匹の獣である。

*海からの獣(10本の角と7つの頭。7番目が反キリスト)

*地中からの獣(小羊のような2本の角。偽預言者)

(5)しかし、黙示録と他の聖書預言の箇所を比較すると、この説の弱点が見えてくる。

①ダニ9:25~27、マタ24~25章、2テサ2:1~12、テト2:13~14

②これらの預言箇所は、将来の出来事を指し示している。

③大患難時代、反キリストの登場、再臨、千年王国、白い御座の裁き、永遠の秩序と続く。

2. 比喩的アプローチ

(1)これは、アレクサンドリヤ神学(アレクサンドリアのクレメンス、オリゲネス)によって提唱されたものである。

(2)この神学はギリシア哲学の影響を受けている。

①霊を善、物質を悪とみなす傾向が非常に強い。

②それゆえ、本質的に反キリアズムである。

③キリアズムとは、初期の教会が持っていた千年王国を信じる信仰のことである。

④アウグスチヌスもこの神学の伝統を受け入れた。

(3)黙示録は、今も続いている神と悪魔の戦い、善と悪の戦いを、象徴的に描写したものである。

(4)しかし、このアプローチには致命的な欠陥がある。

①なぜ黙示録が当時迫害で苦しんでいた聖徒たちの慰めになるのか分からない。

②黙示録に出てくる具体的な数字の意味を解明することができない。

*42ヶ月

Rev 11:2 聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけません。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みこむ。

*1260日

Rev 12:6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

③黙示録に出てくるさまざまな象徴は、将来登場する具体的な人物や出来事を指し示している。

*大患難時代、反キリスト、再臨、千年王国、白い御座の裁き、永遠の秩序

3. 預言既成的アプローチ

(1)黙示録の預言は、紀元70年に、ティトゥス将軍とローマ軍がエルサレムを滅ぼし、神殿を破壊した時に、すべて成就した。従って、黙示録は将来の出来事を預言し

ているわけではない。

(2) しかし、このアプローチは黙示録自身の証言と矛盾している。

①黙1:3

Rev 1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

②黙22:7

Rev 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

③その他、黙22:10、18~19にも「預言」という言葉が出てくる。

④紀元70年には人類の3分の1は死んでいない。

Rev 9:18 これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。

(3) 黙示録の執筆年代は、95年頃である。紀元70年よりも後である。

4. 未来的アプローチ

(1) 黙示録のほとんどは、再臨の前に起こる終末時代の出来事の預言である。

①4章以降が将来の預言である。

*4~18章 大患難時代

*19章 メシアの再臨

*20章 メシア的王国(千年王国)

*21~22章 千年王国から永遠の秩序への移行

(2) 未来的アプローチは、黙示録の字義通りの解釈を可能にする唯一のアプローチ。

(3) メシアの初臨に関する旧約聖書の預言は文字通り成就した。

①100以上の預言がある。

②再臨とそこに至るまでの出来事の預言も、すべて文字通り成就すると信じる。

(4) 初期の教会は、未来的アプローチを採用していた。

(5) 私たちは、このアプローチを採用して黙示録を学ぶ。

(6) この書が当時の信者の慰めになるということを疑問視する人たちもいる。

①遠い未来に起こることが、なぜ今苦しんでいる人にとって慰めとなるのか。

②聖書預言の多くが、遠い未来の出来事を扱っている。

*旧約聖書におけるメシア預言

*ダニエル書における異邦人の王国に関する預言(ダニ2章、7章)

③2ペテ3:10~12

2Pe 3:10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。

2Pe 3:11 このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、

どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょう。

2Pe 3:12 そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。

結論：黙示録を学ぶ目的

1. 黙示録は、この書を学ぶ者に祝福を約束している唯一の書である。

(1) 黙 1:3

Rev 1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

(2) 黙 22:7

Rev 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

①「この書の預言のことばを堅く守る者」とは、黙示録の預言を信じ、メシアの再臨を期待しながら地上生涯を歩む人のことである。

2. 黙示録の学びには、7つの祝福がついてくる。

(1) 神は主権者であり、人類の歴史を支配しておられるという確信が与えられる。

(2) 神はいつか、善が悪に勝利するように摂理の御手をもって導かれるという確信が与えられる。

(3) 空中でイエス・キリストとお会いする携挙の時が近づいているという希望が与えられる。

(4) 天において、すでに召された聖徒たちと再会し、イエス・キリストとともに永遠に住むようになるという希望が与えられる。

(5) イエス・キリストにあって与えられている救いが、どれほど素晴らしいものであるかを知るようになる。

(6) 神のことばである聖書に対する信頼性が増す。

(7) 神はご自身の約束に忠実なお方あることを、深く確信するようになる。

「ヨハネによる前書き」

黙1:1~8

1. はじめに

(1) 前回の復習

- ①歴史主義的アプローチ
- ②比喩的アプローチ
- ③預言既成的アプローチ
- ④未来的アプローチ

(2) 黙示録の3区分

- ①黙1:19は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

②3区分の内容

- * 「あなたの見た事」
- * 「今ある事」
- * 「この後に起こる事」

(3) 黙示録のアウトライン

- ①前書き (1:1~8)
- ②ヨハネが見た事 (1:9~20)
- ③今ある事 (2:1~3:22)
- ④この後に起こる事 (4:1~22:21)

(4) 今回は、「前書き」を取り上げる。

2. アウトライン

- (1) 序言 (1~3節)
- (2) あいさつ (4~8節)

3. 結論:

- (1) 黙示録が啓示する4つの時代
- (2) 黙示録が与えてくれる3つの動機付け

ヨハネによる前書きについて学ぶ

I. 序言 (1~3節)

1. 1節

Rev 1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。

(1) 「イエス・キリストの黙示」

① 「黙示」はギリシア語で「アポカリプシス」である。

*覆いを取る、啓示するという意味がある。

②2つの解釈が可能である。

*キリストが与えた啓示

*キリストに関する啓示

③黙示録はヨハネが書いたので、ヨハネの黙示録と呼ばれる。

④しかし、神がお付けになったタイトルは「イエス・キリストの黙示」である。

(2) 啓示の流れ

①神→キリスト→御使い→ヨハネ→試練の中の信者たち(私たち)

②天使が誰であるかは書かれていないが、ガブリエルである可能性が高い。

*ダニ9:21 ガブリエルはダニエルに70週の預言を伝えた。

*ルカ1:19 ガブリエルはザカリヤにヨハネの誕生を伝えた。

*ルカ1:26 ガブリエルはマリアにイエスの誕生を伝えた。

③天使が神の啓示の仲介者になった事例

*モーセが律法を受けた出来事(ガラ3:19、使7:53)

(3) 「すぐに起こるはずの事」

①ヨハネが見た事が数年以内に起こるということではない。

②ギリシア語で「エン」+「タクス」で「エン・タケイ」である。

*時が来たなら直ちに起こるという意味である。

③ルカ18:8参照

Luk 18:8 あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてください。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」

④「すぐに起こるはずの事」とは、ダニ2:28~29、45にある「終わりの日に起こること」と同じである。

Dan 2:28 しかし、天に秘密をあらわすひとりの神がおられ、この方が終わりの日に起こることをネブカデネザル王に示されたのです。あなたの夢と、寝床であなたの頭に浮かんだ幻はこれです。

Dan 2:45 あなたがご覧になったとおり、一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と青銅と粘土と銀と金を打ち砕いたのは、大いなる神が、これから後に起こることを王に知らされたのです。その夢は正夢で、その解き明かしも確かです。」

2. 2節

Rev 1:2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼が見たすべての事をあかしした。

- (1) ヨハネはキリストのしもべである。
 - ①キリストの御心だけを行う。
 - ②人を恐れない。たとえそれがローマであったとしても。
- (2) 彼は、自分が見たすべての事をあかしした。
 - ①その結果、私たちに黙示録が遺されたのである。

3. 3節

Rev 1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

- (1) 朗読する者と聞く者に祝福が約束されている唯一の書である。
 - ①当時は、個人が聖書を所有することはなかった。
 - ②礼拝の場に出て、聖書朗読を聞くしかなかった。
 - ③この場合は、手紙の朗読である。
- (2) 「時が近づいている」
 - ①この書に書かれていることがすぐに起こるということではない。
 - ②時が来たなら、すぐに起こるという意味である。
 - ③ここでの「時」は「カイロス」である。
 - ④神の預言プログラムでは、次に起こるのは携挙である。

II. あいさつ (4~8節)

1. 4~5節 a

Rev 1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。今いまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、

Rev 1:5a また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。

(1) 「ヨハネからアジア州にある七つの教会へ」(新共同訳)

- ①7つの教会は、激しい迫害に会っていた。
- ②その内の5つは、内的問題を抱えていた(2~3章)。
- ③黙示録執筆の目的は、苦しんでいる信徒たちを励まし、過ちを矯正すること。
- ④7つの教会は、「教会全体」を象徴的に表していると理解すべきであろう。
 - *当時アジアには7つ以上の教会があった。
 - *コロサイの教会がその例である。

(2) 「恵みと平安が、あなたがたにあるように」

- ①「恵み」とは、信者に与えられる神の変わる事のない愛である。
- ②「平安」とは、神との正しい関係である。
- ③「恵み」と「平安」は、イエスの十字架上の御業を土台としたものである。

(3) 三位一体の神

- ①「今いまし、昔いまし、後に来られる方」とは、父なる神である。
- ②「その御座の前におられる七つの御霊」とは、聖霊なる神である。
 - *7人の天使と解釈する学者もいるが、聖霊の方が正解だと思われる。
 - *7という数字は、完全、完成、満ちし、などを意味する。
 - *イザ11:2は、聖霊の7つの特性を記している。

Isa 11:2 その上に、【主】の霊がとどまる。／それは知恵と悟りの霊、／はかりごとと能力の霊、／主を知る知識と【主】を恐れる霊である。

- ③「忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者」とは、子なる神である。
 - *キリストは復活の初穂である。
 - *キリストは再臨し、地上に千年王国を設立される(19~20章)。

2. 5b~6節

Rev 1:5b イエス・キリストは私たちが愛して、その血によって私たちが罪から解放し、

Rev 1:6 また、私たちが王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力が、とこしえにあるように。アーメン。

- (1) キリストは血を流すことによって、私たちに祝福を与えてくださった。
 - ①私たちが罪から解放してくださった。
 - ②私たちは、神の御国の一員となった。
 - *王であるキリストの支配と守りの下に置かれている。
 - ③私たちは、祭司として天の御座に近づけるようになった。

(2) キリストを称える言葉が出てくる。

①この頌栄は、キリストを信じたすべてのクリスチャンが唱えるべきものである。

3. 7節

Rev 1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。

(1) これが黙示録のテーマ聖句である。

- ①キリストは栄光の雲に乗って地上に戻って来られる。
- ②時制は現在形。すでに起こったのと同じことである。
- ③キリストは栄光の雲に包まれて昇天された（使1:9）。
- ④ここでは、携挙と再臨の違いを認識しておこう。

*黙3:10では「全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう」となっている。

⑤黙示録は、再臨の前後に何が起こるかを預言している。

(2) 再臨の目撃者

①「彼を突き刺した者たち」とは、地上に残されたユダヤ人たちのことである。

*ゼカ12:10参照

②「地上の諸族」とは、全人類のことである。

*嘆きの理由は、キリストの裁きを恐れるからである。

③再臨は、ある程度の時間の経過を要する出来事なのかもしれない。

④あるいは、インターネットが利用される可能性もある。

4. 8節

Rev 1:8 神である主、今いまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

(1) これは、キリストの神性宣言である。

- ①「今いまし、昔いまし、後に来られる方」は、キリストの永遠性を示す。
- ②「万物の支配者」は、キリストが歴史をも含むすべてを支配しておられることを示す。
- ③「アルファであり、オメガである」とは、キリストの神性を示す。

*旧約聖書では、神を指す呼び名である。

*イザ44:6、48:12~13

結論：

1. 黙示録が啓示する4つの時代

- | | | |
|------------|-------|----|
| (1) 1～3章 | 教会時代 | ?年 |
| (2) 4～19章 | 大患難時代 | 7年 |
| (3) 20章 | 御国の時代 | 千年 |
| (4) 21～22章 | 永遠の時代 | 無限 |

2. 黙示録が与えてくれるクリスチャン生活のための3つの動機付け

(1) 「わたしはアルファであり、オメガである」(8節)

- ①キリストは、歴史の支配者である。
- ②聖書の中に、本物の歴史哲学がある。

(2) 「見よ、彼が、雲に乗って来られる」(7節)

- ①再臨の希望を抱く者は、日々敬虔な生活を送るようになる。

(3) 「ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした」(2節)

- ①イエス・キリストのあかし
- ②ヨハネの証言
- ③黙示録は、2重に信頼できる書である。

「ヨハネが見た事：栄光の主」

黙1：9～20

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙1：19は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

②3区分の内容

* 「あなたの見た事」(1章)

* 「今ある事」(2～3章)

* 「この後に起こる事」(4～22章)

③今回は、「ヨハネが見た事」を取り上げる。

* 前は、キリストが「アルファでありオメガである」ことを学んだ。

* 今回は、天におられる栄光のキリストについて学ぶ。

* キリストは、地上の教会の様子を熟知しておられる。

2. アウトライン

(1) ラッパの音のような大きな声(9～11節)

(2) 栄光に輝く人の子(12～16節)

(3) 幻の解釈(17～20節)

3. 結論：

(1) ヨハネにとってのキリスト

(2) 教会にとってのキリスト

(3) 信者にとってのキリスト

「ヨハネが見た事」の内容について学ぶ

I. ラッパの音のような大きな声(9～11節)

1. 9節

Rev 1:9 **私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。**

(1) ヨハネの自己紹介

①あなたがたの兄弟

②あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐にあずかっている者

* 苦難、御国、忍耐の3つが関連している。

* ヨハネとその同労者たちは、ドミティアヌス帝によって迫害されていた。

* 彼は「主にして神」と自称し、人々にそれを認めるように強要した。

* それに反発したのが、ユダヤ人とクリスチャンである。

③迫害は、イエスが預言しておられたことである。

Joh 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

④パウロも同じ真理を教えていた。

Act 14:22 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならない」と言った。

* パウロもまた、苦難、神の国、忍耐を関連づけている。

(2) ヨハネがいた場所

①「神のことばとイエスのあかしのゆえに」

* 神のことばに対する信仰と宣教のゆえに

* イエスについてのあかしのゆえに

②「パトモスという島にいた」

* エペソの南西、エーゲ海に浮かぶ島

③教会教父たちの証言

* エイレナイオス、アレクサンドリアのクレメンス、エウセビオス

* ヨハネは、エペソでの牧会の後、この島に島流しになった。

④ヴィクトリヌス（最初の黙示録の注解書を書いた人物）の証言

* ヨハネはこの島で囚人として、鉱山で働かされた。

* 96年にドミティアヌス帝が死ぬと、ネルヴァ帝はヨハネのエペソ帰還を許した。

2. 10 節

Rev 1:10 私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。

(1) 「主の日」とは、週の初めの日ではない。

①原文では「主の」という言葉は形容詞である。

* 「主の栄光が輝き出した特別な日」

②旧新約聖書では、「主の日」とは「裁きの日」の意味で用いられている。

* イザ2:12、13:6、ヨエ1:15、アモ5:20、ゼカ14:1、マラ4:5

*1 テサ5:20、2 ペテ3:10

③ヨハネは、よく知られていた言葉を用いて、特別な日を描写したのであろう。

④この日彼は、御霊に感じた(御霊に満たされた)。

*神からの啓示が受けやすい状態になったということ。

(2) 彼は、ラッパの音のような大きな声を聞いた。

①明瞭で大きな声

②恐らく、戦いを告げるラッパがイメージされているのだろう。

3. 11節

Rev 1:11 その声はこう言った。「あなたの見ることを巻物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。」

(1) その声がヨハネに命じた(命じているのはイエスである)。

①これから見ることを巻物に記せ。

②小アジアにある7つの教会に送れ。

③ヨハネは、これらの教会から霊的父と仰がれていたのであろう。

(2) 見たことを記せという命令は、黙示録に12回出てくる。

①書いてはならない幻がひとつある(10:4)。

(3) 7つの教会はすべて自立した教会である。

①エペソから始まり、半円形に北、東、南へと回る。

②詳細は、2~3章で取り上げる。

II. 栄光に輝く人の子(12~16節)

1. 12~13節

Rev 1:12 そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見えた。

Rev 1:13 それらの燭台の真ん中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。

(1) 声が出てくる方を振り返ると、7つの金の燭台が見えた。

①これはメノラー(七枝の燭台)ではなく、7つの独立した燭台である。

②その意味は、後に解き明かされる(20節)。

(2) 燭台の真ん中に「人の子のような方」が見えた。

①「人の子」はメシアの称号である。

*イエスは好んでこのタイトルを使用された。

*福音書には、80回以上出てくる。

②ダニ7:13に「人の子のような方」というタイトルが出てくる。

Dan 7:13 私がまた、夜の幻を見てみると、／見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、／年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。

③長い衣を着ているのは、裁き主(裁判官)の姿である。

④胸に金の帯を締めているのは、正義によって裁くことの象徴である。

Isa 11:5 正義はその腰の帯となり、／真実はその胸の帯となる。

2. 14～15節

Rev 1:14 その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。

Rev 1:15 その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった。

(1) この描写は、ダニ7:9の「年を経た方」に似ている。

Dan 7:9 私が見ていると、／幾つかの御座が備えられ、／年を経た方が座に着かれた。／その衣は雪のように白く、／頭の毛は混じりけのない羊毛のようであった。／御座は火の炎、／その車輪は燃える火で、

①「年を経た方」とは、父なる神である。

②子なる神も、父なる神と同じ聖さと永遠性を持っておられる。

*頭と髪の毛は、羊毛のように、雪のように白い。

(2) 目は、燃える炎のよう。

①完ぺきな知識、誤りなき洞察力、罪に対する容赦なき裁きを示している。

Rev 2:18 また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。／『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。』

(3) 足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのよう。

①しんちゅうという言葉は、黙1:15と2:18にしか出てこない。

*ギリシア語で「カルカリボノス」である。

*しんちゅうは、銅と亜鉛の合金。

*厳密な意味では、これではない。正確な内容は分からない。

*銅と銀や銀の合金だと提案する学者もいる。

*いずれにしても、銅を基にした合金である。

②青銅という言葉が最初に出てくるのは、創4:22である。

*「ナホッシュェット」というヘブル語。

*青銅とは、銅と錫の合金である。

*このヘブル語の第一義的意味は銅。銅の合金一般も含まれる。

*七十人訳では、「カルコス」というギリシア語。

③ちなみに、英語訳(KJVやASV)では、しんちゅうも青銅も「brass」である。

④共通点は、銅の合金という点である。

⑤神殿の中の青銅の祭壇は、罪のためのいけにえと、その上に下る神の怒りに関係している。

⑥足に関する描写(光輝くしんちゅうのよう)も、キリストが裁き主であることを示している。

(4) 声は、大水のとどろきのよう。

①大波のとどろくのように威厳があり、畏怖の念を抱かせる声である。

②このような声の持ち主に挑戦する者はいない。

3. 16節

Rev 1:16 また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。

(1) 右手に7つの星を持っていた。

①星がなんであるかは、20節で明かされる。

②右手は、権威ある所有を表している。

(2) 口からは鋭い両刃の剣が出ていた。

①両刃の剣は、「神のことば」である。エペ6:17、へブ4:12

②この言葉は、キリストの裁き主としての性質を表現している。

③ギリシア語の「ロンファイア」。ローマ兵が敵を刺し殺すために使用した武器。

(3) 顔は強く照り輝く太陽のよう。

①キリストが持つておられるシャカイナグローリーの現れである。

②変貌山のキリスト。マタ17章。

Ⅲ. 幻の解釈 (17～20 節)

1. 17～18 節

Rev 1:17 それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、

Rev 1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。

(1) ヨハネの反応

①足もとに倒れて死者のようになった。

*変貌山での弟子たちもそうであった (マタ 17:6)。

②パウロも同じような体験をした。

Act 9:3 ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。

Act 9:4 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。

(2) キリストの励ましのことば

①右手をヨハネの上に置いて「恐れるな」と言われた。

*交わりの手を差し伸べた。

②「わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である」

*永遠の存在で、復活したお方でもある。

③「わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている」

*一度死んだが、復活し、永遠に生きている。

④「死とハデスとのかぎを持っている」

*死に対する権威と死者が行く場所に対する権威を持っている。

*クリスチャンの死と復活は、キリストの御手の中に握られている。

2. 19 節

Rev 1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。

(1) これが黙示録のアウトラインである。

①あなたの見た事 (1 章)

②今ある事 (2～3 章)

③この後に起こる事 (4～22 章)

*この部分が預言的内容で、黙示録の中心部である。

3. 20 節

Rev 1:20 わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められ

た意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

(1) 黙示録では、先ず象徴(シンボル)が紹介され、次にその意味が解き明かされる。

- ①その秘められた意味の解説が与えられる。
- ②黙示録は、不可解な書ではなく、注意深く書かれた書である。
- ③字義通りの解釈だけが、黙示録の本当の意味を解き明かすことができる。
- ④黙示録の中に解説がないなら、他の箇所にもそれがある。

*特に、ダニエル書、エゼキエル書が重要である。

*聖書全体を勤勉に学ぶ者にだけ、黙示録の意味が開かれてくる。

(2) 7つの星

- ①7つの教会の御使いたち(守護天使)
- ②御使いに關してさまざまな解釈がある。「アングロス」というギリシア語。

*天使

*神のことばを届けるという意味で、牧師(司教)

*7つの教会に手紙を届ける人間のメッセンジャー

- ③聖書では、星という言葉が象徴的に用いられた場合は、例外なしに天使を指す。

(3) 7つの燭台

- ①7つの教会
- ②教会はこの世に光を届ける使命を持っているので、燭台という象徴は適切。

結論:

1. ヨハネにとってのキリスト

(1) ヨハネが愛する主の声を聞いたのは、恐らく60年ぶりのことであろう。

(2) 60年前のキリスト

- ①ベツレヘムの羊の洞窟で誕生した赤子であった。
- ②人々に仕えるために来られたしもべであった。
- ③十字架に付けられた苦難のしもべであった。
- ④死から甦られた主であった。

(3) 今のキリスト

- ①栄光に輝く裁き主である。
- ②かつてヨハネは、イエスの胸もとに寄りかかっていた(ヨハ13:25)。
- ③今ヨハネは、足もとに倒れて死者のようになった。

*キリストのシャカイナグローリーを知らなかったわけではない。

*しかし、シャカイナグローリーの全貌に触れた時、彼は恐れた。

④そのヨハネに、キリストは励ましと確証のことばを語った。

(4) 私たちにとってのキリスト

①私のサイズに閉じ込め、私の思い通りに動かそうとしているのではないか。

②私たちは、栄光の輝く裁き主としてのキリストを見る必要がある。

③そのキリストが、私たちに交わりの手を指し伸ばしておられる。

2. 教会にとってのキリスト

(1) 7つの燭台は、それぞれ自立している。

①ここでは、教会に教派的組織や階級制は存在しない。

②キリストと燭台の間に遮るものは何もない。

③個々の教会が、キリストと直接つながっている。

(2) キリストは、7つの燭台の真ん中におられる。

①キリストは、地域教会で起こっていることをすべてご存じである。

②迫害の中にある者には、大きな慰めである。

3. 信者にとってのキリスト

(1) キリストは、裁き主として立っておられる。

①キリストには、7つの教会を裁く権威と資格がある。

②それゆえ、7つの教会に書き送るのである。

(2) 黙示録の後半で、キリストは神の敵を裁かれる。

(3) しかし、神の裁きは先ず「神の家」から始まらねばならない。

1Pe 4:17 **なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょうか。**

(4) 教会に対する裁きの性質

①教会は、聖めと褒賞を目的とした裁きを受ける。

②この世は、罪の罰としての裁きを受ける。

「エペソにある教会」

黙2：1～7

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙1：19は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

②3区分の内容

* 「あなたの見た事」(1章)

* 「今ある事」(2～3章)

* 「この後に起こる事」(4～22章)

③今回の箇所から、「今ある事」が始まる。

* 内容は、アジアにある7つの教会への手紙である。

* キリストご自身からの手紙であるが、無視されていることが多い。

2. アウトライン

(1) 7つの教会の神学的意味

(2) エペソにある教会 (1～7節)

①宛先

②賞賛

③叱責

④奨励

⑤約束

3. 結論：

(1) 7つの手紙を無視することの損失

(2) エペソにある教会から学ぶ教訓

(3) いのちの木

7つの教会の神学的意味と、エペソにある教会について学ぶ

I. 7つの教会の神学的意味

1. 7つの教会が選ばれている理由

(1) もっと有名な教会もあるが、選ばれていない。

①コロサイ教会、ローマ教会、アンテオケ教会、エルサレム教会

(2) 7つの教会には、地理的なつながりがある。

- ①エペソから始まり、②そこから北に行くとスミルナ、③さらに北に行くとペルガモ、④そこから東に行くとテアテラ、⑤そこから南に行くとサルデス、⑥そこから東に行くとフィラデルフィア、⑦そこから南東に行くとラオデキヤ。

(3) 教会の数は7つに限定されている。

- ①それゆえ、7は象徴的数字であろう。
- ②聖書では7は完全数である。

2. 3つの神学的意味

(1) 7つの教会とは、当時小アジアに存在していた実際の地域教会である。

- ①これは字義通りの解釈の結果出てくる結論である。

(2) 7つの教会とは、教会の7つの型である。

- ①教会史のどの時代でも、この7つの型は存在していた。
- ②これは、7つの教会への手紙を学んだ結果出てくる推論である。
- ③これらの手紙の内容は、今の教会だけでなく、各個人にも適用される。

(3) 7つの教会とは、それぞれの時代の教会の特徴を預言的に表したものである。

- ①ある時代には、ある教会の型が顕著に表れる。
- ②これも、学びの結果出てくる推論である。
- ③これは、未来的アプローチと調和する解釈法である。

3. 7つの教会と教会史における7つの時代

(1) エペソにある教会は、「使徒時代の教会」の型である（好ましい）。

- ①紀元30年～100年頃までの教会
- ②正統的な教理はあるが、最初の愛から離れた教会

(2) スミルナにある教会は、「迫害時代の教会」の型である（没落）。

- ①1世紀～4世紀の教会
- ②迫害に耐える教会

(3) ペルガモにある教会は、「国家教会時代の教会」の型である（結婚した）。

- ①4世紀～5世紀の教会
- ②妥協する教会、寛容すぎる教会

- (4) テアテラにある教会は、「暗黒時代の教会」の型である（継続した犠牲）。
- ①6世紀～15世紀の教会
 - ②西方ではローマ・カトリック教会が、東方ではギリシア正教会が支配した。
 - ③忍耐深いが、誤った教理を許容する教会
- (5) サルデスにある教会は、「宗教改革時代の教会」の型である（逃れる者）。
- ①16世紀～17世紀の教会
 - ②宗教改革の光は、短時間のうちに消え始めた。
 - ③死にかけている教会
- (6) フィラデルフィアにある教会は、「大宣教時代の教会」の型である（兄弟愛）。
- ①18世紀～19世紀の教会
 - ②リバイバルが起こり、宣教師たちの活躍があった。
 - ③忠実な教会
- (7) ラオデキヤにある教会は、背教時代の教会の型である（人々が支配する）。
- ①終わりの時代の教会、自由主義神学の教会、エキュメニカル運動の教会
 - ②生ぬるく、役に立たない教会

II. エペソにある教会（1～7節）

1. 宛先（1節）

Rev 2:1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。／『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。』

- (1) 当時、エペソは小アジア有数の都市であった。
- ①港町として栄えていた。
 - ②アルテミスの神殿があった。古代世界の七不思議のひとつとされた。
 - *ローマ神話の女神 ディアーナはギリシア語でアルテミスである。
 - ③パウロは第3回伝道旅行で、ここに3年間留まり、効果的な弟子訓練を行った。
 - *影響が大きくなったので、銀細工職人たちが暴動を起こすほどであった。
 - *使 19章参照
 - ④エペソにある教会への手紙は、パウロの奉仕から40年以上経って書かれた。
- (2) 教会の御使いとは、教会を守る天使のことである。

①これを牧師と解釈する人もいる。

(3) キリストの描写

①「右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方」

*7つの星は、7人の天使。

*7つの燭台は、7つの教会。

②教会に対するキリストの守りと主権を示している。

③キリストは、教会のことをすべて知っておられる。

2. 賞賛 (2~3節)

Rev 2:2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。

Rev 2:3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。

(1) この教会は、40年以上にわたり教理的な純粋性を保ったので、ほめられている。

①主は、欠点を指摘する場合でも、まず長所をほめてくださる。

②主は、かれらの行い、労苦、忍耐をご存じである。

(2) 彼らは、悪い者たちを追放した。

①「悪い者たち」とは、偶像礼拝の影響を受けた者であろう。

②さらに、道徳的に問題のある行動をする者でもであろう。

(3) エペソ教会の信徒たちは、偽教師たちの誤った教えを見抜いて拒否した。

①偽教師たちは、7つの教会の最初の4つに存在していた。

②パウロは、偽教師が出ることを予告していた。

*使 20:28~31、2 コリ 11:13

③エペソの信徒たちは、使徒たちの教えに照らして偽りの教えを見抜いた。

3. 叱責 (4節)

Rev 2:4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

(1) エペ 1:15~16

Eph 1:15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、

Eph 1:16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。

①パウロは、この教会の信者のことを聞いて、絶えず神に感謝している。

②彼らは、信仰と愛に満ちていた。

(2) それから40年以上経って、彼らは初めの愛から離れてしまった。

①信者のほとんどが、第2世代のクリスチャンである。

②その教会では、正統的な教理が教えられ、奉仕も熱心に行われている。

③しかし、キリストに対する愛が欠如している。

④これが、使徒たちが死んだ直後の時代の教会の姿である。

4. 奨励 (5～6節)

Rev 2:5 **それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。**

Rev 2:6 **しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行いを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。**

(1) 悔い改めの勧め

①ここは、個人への悔い改めの勧めになっている。

②どこから落ちたかを思い出し、初めの行いをする。

③悔い改めないなら、教会は取り除かれる。

④心の変化と行動の変化は合致するものである。

(2) その後のエペソ教会

①教会は存続し、後(431年)に、教会公会議の舞台になった。

*エペソ会議(キリスト論を議論した)

②紀元5世紀以降、教会も町も衰退した。

③紀元14世紀以降、その近辺は荒廃したままになっている。

(3) ほめことばも出てくる。

①ニコライ派の人々の行いを憎んだ。

②キリストも彼らを憎んでおられる。

(4) ニコライ派とは誰かについて、いろいろな意見がある。

①ニコラスという指導者に従っているセクト

②ニコライ派の意味は、「人々の支配者」。

*民から霊的自由を奪う聖職者の階級制の先駆けか。

③あるいは、キリスト者の自由を乱用し、不道德な行為を容認するセクトか。

5. 約束（7節）

Rev 2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』

(1) 勝利を得る者

- ①勝利を得る者とはイエス・キリストを神の子と信じる者である。
- ②つまり、真のクリスチャンのことである。
- ③真の信仰があれば、誘惑や試練に勝利することができる。

(2) 与えられている約束

- ①「神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう」
- ②これは、天において与えられる永遠のいのちである。

結論：

1. 7つの手紙を無視することの損失

- (1) 現代のクリスチャンは、パウロの手紙やペテロの手紙ほどには、7つの手紙について学ばない。
- (2) その結果、教会は自らの霊的状态を点検するための基準を失った。
- (3) 教会の歴史的展開は、上昇傾向ではなく、下降傾向に向かう。
 - ①最後がラオデキヤにある教会である。
 - ②これは、背教時代の教会の型である。
 - ③使徒たちの教えからの逸脱。自由主義神学やエキュメニカル運動。
 - ④倫理基準の後退。同姓婚の容認。
- (4) ラオデキヤにある教会は、携挙の時に地上に残される教会の型である。
 - ①地上に残された背教の教会が、大患難時代前半の大バビロンにつながっていく。
- (5) クリスチャンの努力によって、地上に神の国を来たらせようという教えがあるが、それは非聖書的である。
 - ①私たちに与えられている使命は、大宣教命令である。
 - ②平和の追求は、平安な生活と伝道の秩序のためである。

2. エペソにある教会から学ぶ教訓

- (1) 教理的正確性と熱心な奉仕だけでは、不十分である。
- (2) 奉仕の動機は、そうすることが正しいということだけでは不十分である。
 - ①キリストに対する愛があるかどうか重要である。
 - ②神は、私たちの手足だけでなく、心も求めておられる。

3. いのちの木

(1) 創3:22

Gen 3:22 神である【主】は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」

(2) 黙22:2

Rev 22:2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

(3) エデンの園に植わっていたいのちの木は、新しいエルサレムに生えている。

①この木から食べる者は、永遠に生きる。

(4) 黙2:7

Rev 2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』

(5) この約束は、特定の人だけに与えられているのではない。

①勝利を得る者とは、イエス・キリストを信じる者である。

1Jn 5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

②普通のクリスチャンが、勝利を得る者である。

(6) 7つの教会に与えられている約束は、すべて私たちに与えられている。

「スミルナにある教会、ペルガモにある教会」

黙2:8~17

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙1:19は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

①「今ある事」(2~3章)の内容は、アジアにある7つの教会への手紙である。

②キリストご自身からの手紙であるが、無視されていることが多い。

③今回は、スミルナにある教会と、ペルガモにある教会を取り上げる。

2. アウトライン

(1) スミルナにある教会 (8~11節)

①宛先

②賞賛

③叱責

④奨励

⑤約束

(2) ペルガモにある教会 (12~17節)

3. 結論:

(1) スミルナにある教会から学ぶ教訓

(2) ペルガモにある教会から学ぶ教訓

(3) 苦難の意味

スミルナにある教会とペルガモにある教会について学ぶ。

I. スミルナにある教会

1. 宛先 (8節)

Rev 2:8 **また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。／『初めであり、終わりである方、死んで、また生きた方が言われる。』**

(1) スミルナは、エペソの北約55キロメートルにある港町である。

①エペソは今日廃墟と化している。

②スミルナは、今も港町として栄えている(イズミール)。人口約20万人。

(2) スミルナという名前

- ①スミルナとは「没薬」という意味である。
- ②ヨハ19:39

Joh 19:39 前に、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。

- ③スミルナという言葉は、迫害を死を予感させるものである。

(3) キリストの自己紹介

- ①「初めであり、終わりである方」
*キリストは永遠の神である。
- ②「死んで、また生きた方」
*キリストは、迫害者の手によって殺されたが、墓から復活された方である。
*黙1:5a 参照

Rev 1:5a また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。

- ③この自己紹介は、迫害を通過していた信者たちには大いなる慰めとなった。
- ④彼らは、日々、死の危険性に直面していた。

2. 賞賛 (9節)

Rev 2:9 「わたしは、あなたの苦しみと貧しさを知っている。——しかしあなたは実際は富んでいる——またユダヤ人だと自称しているが、実はそうでなく、かえってサタンの会衆である人たちから、ののしられていることも知っている。

(1) スミルナの信徒にとっての慰め

- ①キリストは、彼らの苦しみと貧しさを知っておられる。

(2) 彼らは、極貧状態に置かれていた。

- ①しかし、彼らは実際には富んでいた。
- ②これは、靈的豊かさのことである。

(3) サタンの会衆である人たちからののしられていた。

- ①サタンの会衆とは、「サタンの会堂に属する者たち」(口語訳)である。
- ②「シナゴグ・オブ・サタン」とは、その地区にあるユダヤ教の会堂である。
- ③彼らは「ユダヤ人」(ユダとは主をたたえよという意味)でありながら、先祖たちの信仰に立っていない。

(4) 要約すると、スミルナの信者たちは、3種類の迫害を受けていた。

①ローマ帝国による迫害

*「カイザルは主である」と告白しない者は、迫害された。

②宗教的なユダヤ人による迫害

③サタンによる迫害(サタンは4つの手紙に登場する)

*黙2:9(スミルナ)

*2:13(ペルガモ)

*2:24(テアテラ)

*3:9(フィラデルフィア)

3. 叱責

(1) スミルナの教会に対する叱責はない。

①迫害は耐え難いほどであったが、彼らの信仰の純粋性は保たれた。

4. 奨励(10節a)

Rev 2:10a あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。

(1) 苦しみを恐れてはいけないという励ましのことば

①彼らはすでに恐れていた。「恐れるのを止めよ」という命令である。

②この迫害はまだ続く。キリストはすでに知っておられる。

*悪魔が攻撃してくる。

*信仰をためすための投獄がある。

*彼らは、10日の間苦しみを受ける。

(2) 「10日の間」の意味

①文字通りの10日間

②ある限定された期間を指す言葉である。

*迫害はいつまでも続くものではないという意味がある。

*ディオクレティアヌス帝による10年間の迫害

③教会が受ける迫害の全体を示す象徴的数字である。

*紀元96年~313年の間に、キリスト教会を迫害した皇帝が10人出ている。

*①ネロ、②ドミティアヌス、③トラヤヌス、④ハドリアヌス、

⑤セプティミウス、⑥マクシミアヌス、⑦デキウス、⑧ヴァレリアヌス、

⑨アウレリアヌス、⑩ディオクレティアヌス

5. 約束（10b～11節）

Rev 2:10b 死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。

Rev 2:11 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。』

- (1) 死に至るまで忠実でありなさい。
 - ①たとえ殺されようとも、信仰を捨ててはならない。
 - ②迫害する者が信者の命を奪ったとしても、信者は霊的のちを得る。
 - * 「いのちの冠」とは、殉教者に与えられる特別な冠である。

- (2) この段階では、まだだれも殺されていない。
 - ①後にスミルナ教会の司教となったポリュカルポスは、殉教の死を遂げた。
 - *使徒ヨハネの弟子である。
 - *カイザルを礼拝することを拒否したので、火あぶりの刑に処された。
 - ②彼以外にも、殉教者は多く出たであろう。

- (2) 奨励と約束は、個人に与えられている。
 - ①預言のことばの背後には、聖霊がおられる。
 - ②死後に約束されている祝福（永遠のいのち）を黙想し待ち望むことは、試練を乗り越える力となる。
 - ③真の信者は、第二の死（霊的死）を経験することはない。
 - *第二の死とは、未信者が経験する神との永遠の断絶である。
 - *燃える火の池で永遠を過ごす。

II. ペルガモにある教会

1. 宛先（12節）

Rev 2:12 また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。／『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。

- (1) スミルナから約80キロメートル北、エーゲ海から約25キロメートル東。
 - ①裕福であるが、墮落した町である。
 - ②偶像礼拝が蔓延している町である。
 - ③エスクラピウス神殿（ギリシア神話の名医）があった。
 - *ゼウスの神殿があった。

*アテナ(ギリシア神話の女神)礼拝

*ディオニソス(ギリシア神話の酒の神。バッカス)礼拝

④大規模な図書館で有名(蔵書20万冊)

⑤この町の環境は、クリスチャンが生活するには極めて難しいものであった。

(2) キリストの紹介

①「鋭い、両刃の剣を持つ方」

*キリストの叱責のことは予想した描写である。

②両刃の剣とは、神のことはである。

*信者をこの世から切り離す。

*この世を罪に定める。

2. 賞賛(13節)

Rev 2:13 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。

(1) キリストは、彼らが置かれている困難な状況を知っておられる。

①サタンの王座がある。

*エスクラピウス神殿のことであろう。

*杖に巻き付いている蛇が、この偶像の象徴である。

②あるいは、皇帝礼拝のことであろうか。

*ペルガモは、アジアでの皇帝礼拝の中心地であった。

③いずれにしても、この町にはサタンが住んでいる。

*サタンは、神のように遍在ではない。

*この時には、サタンはペルガモにいたのであろう(心地よい町)。

(2) キリストからの賞賛のことは

①ペルガモの信者たちは、真実な信仰を保った。

*皇帝礼拝や他の偶像礼拝に参加しなかった。

②忠実な証人アンテパスが殉教の死を遂げた時でも、彼らは信仰を捨てなかった。

3. 叱責(14~15節)

Rev 2:14 しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行わせた。

Rev 2:15 それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。

- (1) 妥協①：バラムの教えを奉じている人々がいる。
 - ①バラムとは、イスラエルを呪った異教の預言者である。
 - ②彼は、モアブの女を使って、イスラエルを性的に誘惑した。
*民 22～25章
 - ③バラムの教えとは、性的墮落をともなった偶像礼拝のことである。

- (2) 妥協②：ニコライ派の教えを奉じている人々がいる。
 - ①エペソにある教会は、ニコライ派を退けたのでほめられていた。

Rev 2:6 しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行いを憎んでいて、わたしもそれを憎んでいる。

- ②ニコライ派は、キリスト者の自由を放縦な生活の口実として用いた人たち。
- ③あるいは、教会内で聖職者と一般信徒を区別した人たち。
- ④この世の価値観で聖書を再解釈するとき、教会の墮落が始まる。

4. 奨励 (16 節)

Rev 2:16 だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。

- (1) 「悔い改めよ」というのがキリストからの奨励である。
 - ①もしそうしないなら、キリストご自身による裁きが始まる。
 - ②すぐにとは、予期せぬ時に、突然、という意味である。
 - ③キリストは、みことばをもって、あらゆる妥協を裁かれる。

5. 約束 (17 節)

Rev 2:17 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。』

- (1) 勝利を得る者とは、真の信仰者、妥協を許さない信仰者である。
 - ①彼らには、隠れたマナと白い石が与えられる。
- (2) 隠れたマナ
 - ①マナはキリストの型である。
 - ②栄光の御座におられるキリストとの親しい交わりである。
 - ③偶像に捧げられた肉を食べない者には、より素晴らしい食物が用意される。

(3) 白い石

- ①旧約時代の裁判では、無罪のしるしとして白い石が渡された。
- ②競技会での勝利のしるし
 - *勝者の宴会に参加できるしるし
- ③主人が客に与える歓迎のしるし
- ④ここでは、神に受け入れられたしるし
 - *新しい名が書かれているとは、天の宴会に参加できるしるしであろう。
 - *信者は、神の家族の中に数えられている。

結論：

1. スミルナにある教会から学ぶ教訓

- (1) この教会は、「迫害時代の教会」の型である。
 - ①紀元100年頃～313年
 - ②ミラノ勅令により、キリスト教がローマの公認宗教となった。
- (2) この教会は、迫害によって信仰が純化された教会である。
 - ①キリストからの叱責のことばがない。
- (3) 迫害は、いつか終わりを迎える。

2. ペルガモにある教会から学ぶ教訓

- (1) この教会は、「国家と結婚した教会」の型である。
 - ①ペルガモとは、「結婚した」という意味である。
 - ②ミラノ勅令以降、教会はローマ帝国と結婚したような状態になった。
 - ③紀元313年～5世紀末
- (2) 迫害が去ると、教理的純粋性と道徳的純潔を失っていった。
- (3) この教会を表現するキーワードは、「妥協」である。

3. 苦難の意味

- (1) 信者を訓練するため
 - ①霊の父は、私たちを訓練される。
 - ②ヘブ12:3～13
- (2) 過ちを犯すことから信者を守るため

2Co 12:7 また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。

(3) 信者に従順を学ばせるため

Rom 5:3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、

Rom 5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。

Rom 5:5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

(4) 信者は、キリストの御名のために苦しむことを賜っている。

Act 9:16 彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」

(5) 苦しみは、神に捧げる礼拝の中に含まれる要素である。

①没薬は、苦難の象徴である。

②没薬は、礼拝の象徴でもある。

Exo 30:23 「あなたは、最上の香料を取れ。液体の没薬五百シェケル、かおりの強い肉桂をその半分——二百五十シェケル——、におい菖蒲二百五十シェケル、

Exo 30:24 桂枝を聖所のシェケルで五百シェケル、オリーブ油一ヒン。

Exo 30:25 あなたはこれらをもって聖なるそそぎの油を、調合法にしたがって、混ぜ合わせの香油を作る。これが聖なるそそぎの油となる。

「テアテラにある教会、サルデスにある教会」

黙 2：18～3：6

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙 1：19 は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

①「今ある事」（2～3章）の内容は、アジアにある7つの教会への手紙である。

②キリストご自身からの手紙であるが、無視されていることが多い。

③今回は、テアテラにある教会と、サルデスにある教会を取り上げる。

2. アウトライン

(1) テアテラにある教会（2：18～29）

①宛先

②賞賛

③叱責

④奨励

⑤約束

(2) サルデスにある教会（3：1～6）

3. 結論：

(1) テアテラにある教会から学ぶ教訓

(2) サルデスにある教会から学ぶ教訓

テアテラにある教会とサルデスにある教会について学ぶ。

I. テアテラにある教会

1. 宛先（18節）

Rev 2:18 **また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。／『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。』**

(1) テアテラという町

①ペルガモから約65キロメートル南東に行った町

②ペルガモに比べるとはるかに小さな町であるが、商業都市として栄えていた。

③この町は、羊毛と染料で有名であった。

(2) キリストの自己紹介

- ①自己紹介のことばから、手紙の内容が予測できる。
- ②「燃える炎のような目を持ち」とは、教会の現状を見抜いているということ。
- ③「その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子」
 - *これは、裁き主キリストを描写することばである。

(3) 黙1:13~15との対比(あなたの見た事)

- ①黙1:13~15では、キリストは「人の子」。
- ②黙2:18では、キリストは「神の子」。
- ③この教会の問題を解決するためには、キリストの神性の再確認が必要であった。

2. 賞賛(19節)

Rev 2:19 「わたしは、あなたの行いとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行いが初めの行いにまさっていることも知っている。

(1) キリストは、彼らが信者として成長していることを知っておられる。

- ①行い、愛、信仰、奉仕、忍耐
- ②初めの行いにまさる行いをしている。

(2) この教会は、初めの愛から落ちたエペソにある教会とは大いに異なる。

- ①しかし、彼らは深刻な問題を抱えていた。
- ②誤った教理が受け入れられていた。

3. 叱責(20~23節)

(1) 20~21節

Rev 2:20 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行わせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。

Rev 2:21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしない。

①イゼベルという女の存在

- *この女は、預言者だと自称している。
- *キリストのしもべたちに誤った教えを教えている。

②教理が間違っていると、不品行と偶像礼拝の問題が出てくる。

- *キリストのしもべたちに不品行を行わせている。
 - ・肉体の罪を犯しても、霊に影響を与えないという教えであろう。
 - ・ヨハネの手紙Ⅰ~Ⅲは、グノーシス主義の問題を扱っている。
- *キリストのしもべたちに偶像にささげた物を食べさせている。

③不品行の問題は、ある期間継続していた。

*悔い改めの機会が与えられたのに、この女は悔い改めようとしなかった。

(2) 22～23 節

Rev 2:22 見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう。

Rev 2:23 また、わたしは、この女の子どもたちをも死病によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行いに応じてひとりひとりに報いよう。

①キリストはこの女をただちに裁かれる。床で罪を犯したので、床で病にかかる。

②この女が行っていることは姦淫である。

③この女に同調している者たちは、患難の中に投げ込まれる。

④「この女のこどもたち」とは、この女に従う者たちである。

⑤キリストの裁きが劇的なので、全教会はキリストの力を知るようになる。

*キリストがすべてを見抜いておられることを知るようになる。

4. 奨励 (24～25 節)

Rev 2:24 しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタンの深いところをまだ知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。

Rev 2:25 ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていないさい。

(1) 真の信仰者たちへのキリストのことば

①彼らはレムナントである。つまり、この教会の大半が墮落していたのである。

②彼らへの奨励は単純である (ほかの重荷を負わせない)。

*しっかりと現状を維持しなさい (正しい教理と行い)。

*小さな教会の中で、光を輝かし続ける。

5. 約束 (26～29 節)

(1) 26～27 節

Rev 2:26 勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。

Rev 2:27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。

①勝利を得る信仰者に約束されているのは、千年王国での統治権である。

②詩2:9

Psa 2:9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、／焼き物の器のように粉々にする。』

- ③ヨハネは詩2:9を、勝利を得る信仰者に適用している。
- ④「治める」(27節)は、ギリシア語で「ポイマネイ」である。
*羊飼いが羊を守り導くという動詞である。
- ⑤キリストは父から支配の権威を受け、それを信者に与える。

(2) 28節

Rev 2:28 また、彼に明けの明星を与えよう。

- ①明けの明星は、太陽が昇る直前に現われる星である。
- ②キリストは明けの明星として現れ、教会を携挙される。
*キリストは明けの明星である(黙22:16)。

(3) 29節

Rev 2:29 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』

- ①この表現は、今までは約束の前に出ていた。
- ②この手紙では、約束の後に出てくる。
*恐らく、勝利を得る者だけが、聞く耳を持つということであろう。
- ③残りの3つの手紙でも同じパターンが続く。

II. サルデスにある教会

1. 宛先(1節a)

Rev 3:1 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。／『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。

(1) サルデスという町

- ①テアテラから南東に約50キロメートル
- ②東西に走る交易路の要衝の町
- ③宝石、染料、繊維で有名。裕福な町。
- ④偶像礼拝の町。アルテミスの神殿があった。
- ⑤神殿の遺跡のそばから教会の建物が発掘されている。

(2) キリストの自己紹介

- ①「神の7つの御霊、および7つの星を持つ方」
- ②聖霊と7つの教会の守護天使たちは、キリストの御手の中にある。

③キリストは、聖霊を通して教会を支配される。

2. 賞賛 (1 節)

Rev 3:1b 「わたしは、あなたの行いを知っている。あなたは、生きていとされているが、

(1) 宗教改革により、救済論が回復された。

①それは正しい行いを生み出した。

(2) この教会は、生きていとされている。

3. 叱責 (1b～2 節)

Rev 3:1c 実は死んでいる。

Rev 3:2 目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行いが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。

(1) キリストは、この教会は生きていとという評判を否定された。

①他教会からの評価は、極めて高かった。

②キリストの評価は、実は死んでいるというものである。

*信仰は形式的で、超自然的ないのちの交流がない。

(2) 追加のことば

①信者の義務を果たしてはいない。

4. 奨励 (3 節)

Rev 3:3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。

(1) 目をさましなさい。

①最初に聞いたことを思い出す。

②それを堅く守る。

③悔い改める (霊的命のない状態を悔い改める)。

(2) 目をさまさなければ、キリストは盗人のように来る。

①突然、予期せぬときに来る。

5. 約束 (4～6 節)

Rev 3:4 しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着

て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。

Rev 3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。

Rev 3:6 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』

- (1) サルデスには、正しい信仰を守った者が幾人かいた。
 - ①彼らには、白い衣が約束された。
 - ②白い衣は、神の義の象徴である。
- (2) 彼らは、勝利を得る者である。
 - ①彼らの名は、いのちの書から消されることがない。
- (3) 「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい」が最後に出てくる。

結論：

1. テアテラにある教会から学ぶ教訓

- (1) テアテラとは「継続した犠牲」という意味である。
 - ①これは、「暗黒時代の教会」の型である。
 - ②キリストの十字架の意味を誤解し、継続して犠牲を捧げている。
 - ③6世紀～15世紀の教会の型
- (2) 西方ではローマ・カトリック教会が、東方でギリシア正教会が支配した。
 - ①忍耐深いが、誤った教理を許容する教会
- (3) テアテラの町に最初に福音を伝えたのは、ルデアである可能性が高い。
 - ①使 16:14～15

Act 16:14 テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。

Act 16:15 そして、彼女も、またその家族もバプテスマを受けたとき、彼女は、「私を主に忠実な者とお思いでしたら、どうか、私の家に来てお泊まりください」と言って頼み、強いてそうさせた。

②女性によって始められた教会を今支配しているのは、やはり女性である。

(4) イゼベルという名前

- ①実名と考えてもおかしくない。
- ②あるいは、イゼベル的な性質を持った女性とも考えられる。
- ③アハブ王の妻イゼベルは、北王国を墮落させた(1列16:31~33)。
- ④テアテラ教会のイゼベルと旧約聖書のイゼベルには相関関係がある。

(5) イゼベルの姿とローマ・カトリック教会の教えが重なって見える。

- ①ミサでのパンとぶどう酒は文字通りキリストの肉と血に変わる。
- ②マリア崇拜、わざによる救い、洗礼による生まれ変わり、煉獄の教えなど

2. サルデスにある教会から学ぶ教訓

(1) サルデスとは、「逃れる者」、「逃れ出る者」という意味である。

- ①「暗黒時代の教会」からの分離を暗示している。
- ②これは、「宗教改革時代の教会」の型である。
- ③16世紀~17世紀の教会の型である。

*1517年 ルターがヴィッテンベルク城教会の扉に95カ条の提題を掲げた。

*1648年 ヨーロッパ諸国の国際会議の始まり(ウェストファリア条約)
(カトリック国とプロテスタント国の30年にわたる戦争)

(2) 教会は生きているように見えるが、実は死んでいる。

- ①教会は形式主義、儀式主義、世俗的、政治的な組織になっていった。
 - *名目上のクリスチャンが増えた。
- ②ヨーロッパでの国家教会、アメリカの植民地での教会
- ③ドイツやスカンジナビア諸国では、ルーテル教会となった。
- ④英国では、聖公会となった。
- ⑤スコットランドでは、長老派教会となった。
- ⑥スイスでは、改革派教会となった。

(3) 今日のプロテスタント教会はどうか。

- ①多くの教会が、生きている教会と見なされている。
- ②しかし、キリストの目から見ると死んでいる。
- ③信者の信仰の発露は、ほぼ日曜日の礼拝出席に限られている。
- ④日々の生活において、キリストとの生ける関係がない。
- ⑤宗教改革が回復したのは救済論だけである。
- ⑥回復途上にある聖書的教理

*イスラエル論

2016年9月18日（日）、19日（月） 6回 「テアテラの教会とサルデスの教会」

* 預言解釈

* 終末論

「フィラデルフィアにある教会」

黙 3 : 7～13

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙 1 : 19 は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

①「今ある事」(2～3章)の内容は、アジアにある7つの教会への手紙である。

②今回は、フィラデルフィアにある教会を取り上げる。

2. アウトライン

(1) フィラデルフィアにある教会 (3 : 7～13)

①宛先

②賞賛

③叱責

④奨励

⑤約束

3. 結論 :

(1) フィラデルフィアにある教会から学ぶ教訓

(2) 携挙

フィラデルフィアにある教会について学ぶ。

I. フィラデルフィアにある教会

1. 宛先 (7節)

Rev 3:7 **また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。 / 『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。**

(1) フィラデルフィアの町は、サルデスの南東約45キロメートルに位置する。

①肥沃な地と農業生産で有名な町である。

②特にワインで有名。酒の神ディオニソス(バッカス)が町の主神であった。

②たびたび地震に襲われ、数回にわたって町が破壊された。

③最も近い地震は、紀元37年に起こっていた。

(2) 命名の由来

- ①ペルガモン王国の第4代国王アッタロス2世が建設した町であった。
- ②彼は、アッタロス・フィラデルフォス（愛兄王）と呼ばれた。
- ③そこからフィラデルフィアという名前になった。

(3) キリストの自己紹介

①「聖なる方、真実な方」

- *キリストは聖なるお方である。つまり、神である。
- *真実な方は、神以外にはいない。

②「ダビデのかぎを持っている方」

- *黙1:18では、「死とハデスとのかぎを持っている方」と紹介されていた。
- *ここでは、「ダビデのかぎを持っている方」。
- *イザ22:22

Isa 22:22 わたしはまた、／ダビデの家のかぎを彼の肩に置く。／彼が開くと、閉じる者はなく、／彼が閉じると、開く者はない。

- *ヒルキヤの子エルヤキムにダビデの家のかぎが与えられた。
- *彼は、王の財宝に自由に近づくことができた。
- *同じように、キリストは霊的富に自由に近づくことができる。

③「彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく」

- *キリストは絶対的な権威を持ったお方である。
- *伝道の扉を開くのは、キリストご自身である。
- *開いた扉を閉じる者はいない。

2. 賞賛 (8～9節)

(1) 8節

Rev 3:8 「わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。

①キリストは、この教会の信徒たちの行いを知っておられる。

②黙3:8の訳文の比較

- *「あなたには少しばかりの力があって、」(新改訳)
- *「あなたは力が弱かったが、」(新共同訳)
- *「あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、」(口語訳)

- ③この教会は、町の中では影響力が小さかったのであろう。
- ④あるいは、信徒たちは下層階級の出身であったのかもしれない。
- ⑤にもかかわらず、彼らはキリストのことばを守り、信仰を捨てなかった。

*信者は、弱い時にこそ強い。キリストの力が働く。

⑥キリストは、彼らが忠実であったので、彼らのために門を開かれた。

*これは、伝道の門、神への奉仕の門である。

*だれもこの門を閉ざすことはできない。

(2) 9節

Rev 3:9 見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうではなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。

①彼らの敵は、当時の状況では、不信仰なユダヤ人たちである。

②「サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうではなくて、うそを言っている者たち」

③主イエスを拒否したユダヤ人たちは、無意識のうちにサタンの手先となった。

*適応においては、これをキリスト教のカルトと考えてもよい。

④彼らの敵は、やがて真理を認めるようになる。

*彼らの敵は、キリストが彼らを愛していることを知るようになる。

*神は、ユダヤ人だけでなく異邦人も愛しておられる。

*これは、使 15 章のエルサレム会議で明らかになった真理である。

3. 叱責

(1) 叱責のことばがない。

①スミルナの教会の場合も、叱責のことばはなかった。

4. 奨励

(1) 奨励のことばもない。

①ほめられ、約束のことばが与えられているだけである。

5. 約束 (10～13 節)

(1) 10 節

Rev 3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

①「全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう」

*黙 6～19 章の大患難時代。「the hour of trial」

②これは、大患難時代からの守りの約束である。

③フィラデルフィアの教会は、13 世紀まで生き延びた。

*小アジアにおける宣教の拠点であった。

④今日でも少数のクリスチャンが住んでいる。迫害を恐れて、身を隠している。

(2) 11～12節

Rev 3:11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていていなさい。

Rev 3:12 勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。

①「わたしは、すぐに来る」

*すぐに、そして、突然来る。

②それゆえ、今持っている信仰を持ち続ける必要がある。

③勝利を得る者は、神の聖所の柱となる。

*これは、比喩的言葉である。

*この町の偶像の宮では、貴族の名が刻まれた柱が建てられていた。

*新しいエルサレムには神殿はない。そこ全体が神殿である。

*黙 21 : 22

Rev 21:22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。

*柱は、力、栄誉、永遠の保証のしるしである。

*地上の神殿の柱は倒れるが、信者は永遠に倒れない。

④信者の上には、3つの新しい名が記される。

*名を記すとは、所有権を表す行為である。

*神の御名、新しいエルサレムの御名、キリストの新しい名

*信者は、この3つと一体化している。

*キリストの新しい名とは、キリストのご性質の全貌を意味している。

(3) 13節

Rev 3:13 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』

①ここでも、最後にこの奨励のことばが出てくる。

結論：

1. フィラデルフィアにある教会から学ぶ教訓

(1) フィラデルフィアとは「兄弟愛」という意味である。

- (2) この教会は、「大宣教時代の教会」の型である。
- ①18世紀～19世紀の教会の型
 - ②1648年(ウエストファリア条約)～1900年頃
- (3) 有名な宣教師たち
- ①ウィリアム・ケアリ(インドで奉仕したイギリス人宣教師)
 - ・靴屋であったが、宣教師となった。
 - ・ベンガル語を初めとする6ヶ国語の聖書を完成させた。
 - ②アドニラム・ジャッドソン(ビルマで奉仕した米国人宣教師)
 - ・ビルマ(ミャンマー)で40年間宣教した。
 - ・聖書をビルマ語に翻訳した。
 - ③ハドソン・テラー(中国で奉仕したイギリス人宣教師)
 - ・チャイナ・インランド・ミッション(中国内地宣教師団)の創立者である。
 - ・清で51年間活動した。
 - ・この宣教団体は、800人の宣教師を呼び、125の学校を開校し、18,000人の回心者を生んだ。
 - ・現在、この団体はOMFインターナショナルとなっている。
 - ④18世紀～19世紀の200年間、世界中で宣教師たちに閉ざされた国はほとんどなかった。
- (4) この教会に対する叱責のことばはない。

2. 携挙

(1) 黙3:10の釈義

Rev 3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

- ①「全世界に来ようとしている試練の時」とは、大患難時代のことである。
- ②「the hour of trial」と前置詞がある。

(2) 訳文の比較

- 「全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう」(新改訳)
- 「全世界に来ようとしている試練の時に、わたしもあなたを守ろう」(新共同訳)
- 「全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう」(口語訳)
- 「I also will keep thee from the hour of trial.」(KJV)

(3) 前置詞をどう訳すかで、意味は変わって来る。

- ①前置詞は「エク」である。
 - * 区別、分離を意味する前置詞である。
- ②大患難時代の中での守りではなく、そこから取り出されるということ。

- ③黙3:10は、携挙のタイミングがいつかを示している聖句である。
- ④「試練の時には、あなたを守ろう」と訳すと、教会は大患難時代を通過することになる。
- ⑤「試練の時からあなたを守ろう」と訳すと、教会は大患難時代が始まる前に天に上げられることになる。
- ⑥黙3:10は、大患難時代の前の携挙を教えている。
- (4) 地域教会であるフィラデルフィアの教会になぜこの約束が与えられたのか。
 - ①フィラデルフィアの教会は真実な教会の型でもある。
 - *聖書の教えに回帰した教会である。
 - ②この約束は、真実な教会に普遍的に与えられるものである。
- (5) 参照聖句
 - ①ヨハ14:1~3、1コリ15:51~54、1テサ4:13~17
- (6) 黙3:11

Rev 3:11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。

- ①「すぐに」とは、いつ起こってもおかしくないという意味。
- ②再臨は大患難時代の後に起こるが、携挙はなんの前提もなしに起こる。

「ラオデキヤにある教会」

黙 3 : 14～22

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙 1 : 19 は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

①「今ある事」(2～3章)の内容は、アジアにある7つの教会への手紙である。

②今回は、ラオデキヤにある教会を取り上げる。

2. アウトライン

(1) ラオデキヤにある教会 (3 : 14～22)

①宛先

②賞賛

③叱責

④奨励

⑤約束

3. 結論 :

(1) ラオデキヤにある教会から学ぶ教訓

(2) 7つの教会への手紙のまとめ

ラオデキヤにある教会について学ぶ。

I. ラオデキヤにある教会

1. 宛先 (14節)

Rev 3:14 **また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。／『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。**

(1) ラオデキヤという町

①フィラデルフィアから約65キロメートル南東に位置する裕福な町

*フィラデルフィアからコロサイに向かう途中にある町

②この手紙が書かれる約35年前に、地震によって破壊されたが、再建された。

*再建できるほどの富があった。

③主要な産業は、金融、羊毛製品、製薬であった。

④パウロがこの町を訪問したという記録はないが、彼はラオデキヤ教会を祈りに覚えていた。

Col 2:1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。

Col 4:16 この手紙があなたがたのところで読まれたなら、ラオデキヤ人の教会でも読まれるようにしてください。あなたがたのほうも、ラオデキヤから回って来る手紙を読んでください。

(2) キリストの自己紹介

① 「アーメンである方」

*イザ 65:16の「まことの神」は、「the God of amen」である。

*これは、旧約聖書では神のタイトルである。

*人間世界の出来事の背後に、神の主権がある。

*神の約束はすべて成就する。

2Co 1:20 神の約束はことごとく、この方において「しかり」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するのです。

② 「忠実で、真実な証人」

*黙 1:5と3:7で語ったことの繰り返しである。

*キリストは神である。

*真実な情報を共有することが、問題解決の始まりである。

③ 「神に造られたものの根源である方」

*キリストは、天地が創造される前から存在していた方である。

*キリストは、被造世界に対して権威を持っておられる。

*これは、ラオデキヤの教会向かって厳しい言葉を語るための準備である。

2. 賞賛

(1) ラオデキヤの教会に関しては、賞賛のことばがない。

①キリストにとっては、受け入れがたい教会であった。

②牧師も信徒も、忌むべき霊的状态にあった。

③パウロの時代から、この教会は霊的に危険な状態にあったと思われる。

Col 4:17 アルキポに、「主にあって受けた務めを、注意してよく果たすように」と言ってください。

3. 叱責 (15~17節)

(1) 15~16節

Rev 3:15 「わたしは、あなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。

Rev 3:16 このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあな

たを吐き出そう。

- ①キリストは、この教会の問題を知っておられる。生ぬるいこと。
- ②古代世界では、宴会や宗教行事の席上、熱い飲み物か冷たい飲み物が出された。
- ③生ぬるい飲み物は飲まなかった。
- ④キリストも、生ぬるい飲み物を口から吐き出す。
 - *生ぬるい飲み物とは、ラオデキヤの教会の信徒たちである。
- ⑤この叱責は、この町の水供給の状況を背景としたものである。
 - *数キロ北にあるヒエラポリスから地下水路を通して水が運ばれた。
 - *ラオデキヤに着くころには、その水は生ぬるくなっていた。
 - *ラオデキヤの水を飲んだ人は、思わず吐き出しそうになった。
 - *一方、ヒエラポリスでは、温泉が湧いていた。
 - *また、コロサイでは、冷水が泉から湧いていた。
- ⑥キリストは、冷たいか熱いかであって欲しいと言われた。
 - *冷たいとは、信仰に無関心な状態である。
 - *熱いとは、信仰熱心な状態である。
 - *生ぬるいとは、この世と妥協し、キリストを心から締め出している状態である。
 - *これは、信仰を告白しながら救われていない人と、救われてはいるが霊的に成長していない人の両方を指すと考えられる。

(3) 17 節

Rev 3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、衰れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。

- ①霊的に生ぬるいという証拠が上げられている。
- ②物質的な豊かさに満足し、自らの霊的貧しさに気づいていない。
- ③彼らは、霊的に盲目である。
- ④キリストの厳しい評価に注目すべきである。
 - *みじめで、衰れで、盲目で、裸の者である。

4. 奨励 (18～19 節)

Rev 3:18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現さないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。

Rev 3:19 わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。

- (1) 通常金ではなく、火で精錬された金をキリストから買う。
 - ①この町は、金融業によって富を蓄積していた。
 - ②火で精錬された金とは、神の義のことか、神に栄光を帰す信仰のことであろう。
 - ③これは、彼らを真に豊かにするものである。
 - ④これは買えるものではなく、信仰によって受け取るものである。

- (2) 裸の恥を現さないために着る白い衣を買う。
 - ①彼らは、美しい衣をまとっていた。
 - ②ラオデキヤの産物として有名なものは、黒い羊毛で作った黒い上着である。
 - ③しかし、その衣ではなく、白い衣を買うように命じられた。
 - ④この衣は、霊的裸を隠すための義の衣の象徴である。

- (3) 目に塗る目薬を買う。
 - ①エスクラピウス神殿(ギリシア神話の名医)があった(ペルガモと同じ)。
 - ②その神殿の中に、医学学校があった。
 - ③そこでは、中近東でよく見られる眼病を直すための軟膏が売られていた。
 - ④しかし、ラオデキヤの信徒たちが必要としていたのは、霊的洞察力である。
 - ⑤それは、聖霊によって与えられるものである。

- (4) キリストの叱責は、愛に基づくものである。
 - ①もし愛していないなら、キリストはこの教会を無視するはずである。
 - ②それゆえ、信徒たちは熱心になって、悔い改める必要がある。

5. 約束(20~22節)

(1) 20節

Rev 3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

- ①絵画的表現で、キリストの約束が語られている。
- ②これは、未信者への勧告ではなく、信者への勧告である。
 - *適用として未信者に語るのは構わない。
- ③信者の責務
 - *キリストを心の中から締め出していたという認識
 - *キリストが外に立って戸をたたいておられるという認識
 - *キリストの声に応答して戸を開くという行動

④キリストの約束

*キリストは、その人の心に入ってください。

*キリストは、その人と食事をしてください（親密な交流）。

(2) 21 節

Rev 3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

①勝利を得る者とは、キリストの招きに応答し、心にキリストを迎える者である。

②その人には、キリストとともに御座に着き、キリストの勝利に与ることが約束される。

*これは、千年王国での約束である。

(3) 22 節

Rev 3:22 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』』

①ここでも、約束の最後にこの勧告が語られる。

②これが、7つの手紙の最後の勧告である。

結論：

1. ラオデキヤにある教会から学ぶ教訓

(1) ラオデキヤとは、「人々が支配する」という意味である。

(2) この教会は、「背信の教会」の型である。

(3) 年代的には、1900年から現代に至るまでの期間である。

①主イエスを締め出している教会

②終わりの時代の教会

③自由主義神学の教会

④エキュメニカル運動の教会

⑤生ぬるく、役に立たない教会

⑥建物や富を誇り、霊的貧しさに気づいていない教会

⑥この世の楽しみや成功に関心が向かい、キリストが締め出されている教会

(4) 黙 3 : 20

Rev 3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をす
る。

①これは、教会全体ではなく、個人への呼びかけである。

- ②各人は「自分という家」の主人であり、内側からその家を守っている。
- ③戸を開くかどうかは、主人の決断にかかっている。
- ④「生ぬるい」とは、キリストが心の外におられる状態である。
 - *まだ救われていない人状態
 - *救われてはいるが、霊的に成長していない状態
 - *どちらに属している人なのかを判断するのは容易ではない。
- ⑤キリストを心に迎える人が増えれば、教会全体に霊的覚醒（目覚め）が起こる。
- ⑥場合によっては、背教の教会を去って聖書的な教会に集う必要もあるだろう。

2. 7つの教会のまとめ

- (1) キリストから教会に宛てられた個人的手紙であり、最終的な勧告である。
- (2) 紀元1世紀に存在していた7つの教会は、今日の教会の7つの型である。
- (3) 7つの教会が抱えていた問題は、そのまま、今日の教会の問題でもある。

「7つの封印を開く前の天の様子」

黙4:1~11

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙1:19は、黙示録を3区分している。

Rev 1:19 **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

①黙示録4章から22章までは、将来起こることの預言である。

②福音書の中心テーマは、キリストの初臨である。

③黙示録の中心テーマは、キリストの再臨である。

④キリストの再臨を中心に据えて将来の出来事を概観すると以下ようになる。

*4章~18章 キリストの再臨に至るまでの出来事

*19章 キリストの再臨

*20章 千年王国

*21章~22章 新天新地

⑤黙示録は、旧約聖書の預言を時間順に並べてくれている。

⑥新しい要素は、新天新地の預言である。

⑦将来の出来事の中で、時間順でない部分があるので、注意する必要がある。

⑧黙示録の目的は、信者をキリストの再臨に備えさせることにある。

2. アウトライン

(1) 招き (1節)

(2) 天の御座 (2~3節)

(3) 24人の長老たち (4節)

(4) 7つの御霊 (5節)

(5) 4つの生き物 (6~8節)

(6) 天での礼拝 (9~11節)

3. 結論:

(1) 24人の長老たちとは誰か。

(2) 褒賞のための裁きとは何か。

7つの封印を開く前の天の様子について学ぶ。

I. 招き (1節)

Rev 4:1 **その後、私は見た。見よ。天に一つの開いた門があった。また、先にラッパのよう**

な声で私に呼びかけるのが聞こえたあの初めの声があった。「ここに上れ。この後、必ず起こる事をあなたに示そう。」

(1) ヨハネは、7つの教会への手紙の啓示を聞いた後、天の御座の幻を見た。

①「その後、私は見た」とは、時間の流れを示す言葉である。

(2) 招きの言葉がかかった。

①一つの開いた門があった。

* ヨハネには、天の情景を目撃することが許された。

②ラッパのような声は、黙示1:10の声と同じ、つまりキリストの声である。

* 「ここに上れ」

* 「この後、必ず起こる事をあなたに示そう」

③黙示1:19と似たような言葉が使われている。

Rev 1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。

(3) 「必ず起こる事」

①ギリシア語の「デイ」という言葉が使われている。

②「the things which must come to pass hereafter.」(ASV)

③未来の出来事に関する預言である。

④歴史に対して神が持っておられる目的が必ず成就するという意味でもある。

II. 天の御座 (2~3 節)

Rev 4:2 たちまち私は御霊に感じた。すると見よ。天に一つの御座があり、その御座に着いている方があり、

Rev 4:3 その方は、碧玉や赤めのうのように見え、その御座の回りには、緑玉のように見える虹があった。

(1) 「私は御霊に感じた」

①「I was in the Spirit.」(ASV)

* 聖霊の内にあって彼の霊が天に上げられた。

②肉体はパトモス島にいながら、霊は天に上げられるという体験をした。

③これは携挙ではなく、ヨハネの個人的な体験である。

④ヨハネは、天において一つの御座と、その御座に着いている方を見た。

* 神の絶対的な権威を示している。

(2) 御座に着いている方は、碧玉や赤めのう(ルビー)のように見えた。

①シャカイナグローリーを人間の言葉で描写するのは不可能である。

②そこでヨハネは、宝石を用いて天の情景を描写している。

(3) 碧玉と赤めのう

①大祭司が胸に着ける12の石の最初が赤めのう、最後が碧玉である。

*出28:17~21

②ツロの王（墮落前のサタンのこと）は、神の園、エデンにいた。

*そこには、赤めのうと碧玉があった。

*エゼ28:13

③新しいエルサレムの城壁の土台石となる。

*黙21:19~20

(4) 御座は、エメラルド色の虹で囲まれていた。

①御座に着いている方は、父なる神である。

Ⅲ. 24人の長老たち（4節）

Rev 4:4 **また、御座の回りに二十四の座があった。これらの座には、白い衣を着て、金の冠を頭にかぶった二十四人の長老たちがすわっていた。**

(1) 中心になる御座の回りに、より小さな24の御座があった。

①24人の長老たちが座っていた。

(2) 24人の長老たちとは誰か。

①これをどう解釈するかで、その人の終末論が決まって来る。

②私たちは、24人の長老たちは携挙された教会であると解釈する。

③これは、患難期前携挙説の立場である。

Ⅳ. 7つの御霊（5節）

Rev 4:5 **御座からいなずまと声と雷鳴が起こった。七つのともしびが御座の前で燃えていた。神の七つの御霊である。**

(1) 感動的な天の情景が、さらに目を見張るものとなった。

①雷鳴は、黙示録で8回登場する。

②神の裁きが地上に下ろうとしていることを暗示している。

(2) 7つのランプが燃えていた。

①これは、神の7つの御霊を象徴している。黙1:4参照。

②聖霊の7つの性質に関しては、イザ11:2~3参照。

(3) ここまでで、父なる神と聖霊なる神が紹介された。

①黙5章でキリストが「ほふられたと見える小羊」として登場する舞台が整った。

V. 4つの生き物(6~8節)

1. 6~7節

Rev 4:6 御座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

Rev 4:7 第一の生き物は、獅子のようであり、第二の生き物は雄牛のようであり、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空飛ぶ鷲のようであった。

(1) 御座の前の床は、水晶に似たガラスの海であった。

①神が聖であることを示していると考えられる。

②モーセがシナイ山で見た情景と似ている。

Exo 24:9 それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は上って行った。

Exo 24:10 そうして、彼らはイスラエルの神を仰ぎ見た。御足の下にはサファイヤを敷いたようなものがあり、透き通っていて青空のようであった。

(2) 御座のそばと回りに、4つの生き物がいた。

①獅子のような生き物

②雄牛のような生き物

③人間のような顔を持つ生き物

④空飛ぶ鷲のような生き物

(3) 4つの福音書で描かれていたキリストの姿と符合する。

①獅子は、マタイの福音書が描くキリスト。ユダの獅子。

②雄牛は、マルコの福音書が描くキリスト。【主】のしもべ。

③人間は、ルカの福音書が描くキリスト。受肉した人間。

④鷲は、ヨハネの福音書が描くキリスト。神の子。

2. 8節

Rev 4:8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その回りも内側も目で満ちてい

た。彼らは、昼も夜も絶え間なく叫び続けた。／「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、今いまし、後に来られる方。」

(1) 4つの生き物は、天使たちである。

①イザ6:2~3に登場するセラフィムは、神をたたえていた。

Isa 6:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、

Isa 6:3 互いに呼びかわして言っていた。／「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。／その栄光は全地に満つ。」

②6つの翼、飛ぶ姿、礼拝の言葉などから判断して、これはセラフィムであろう。

③イザ6:2~3では、彼らの形状や顔、また数は、啓示されていなかった。

④ちなみに、翼を持った天使は例外的な存在である。

⑤エゼ10章の4つの顔を持つケルビムとも関連性があるように思える。

(2) 黙示録に14回の頌栄が登場するが、これが最初のものである。

①礼拝を受けているのは、父なる神である。

VI. 天での礼拝(9~11節)

1. 9~10節

Rev 4:9 また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、

Rev 4:10 二十四人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前に投げ出して言った。

(1) 4つの生き物が捧げる礼拝に、24人の長老たちも参加した。

①これが2回目の頌栄である。

②礼拝を受けているのは、父なる神である。

(2) 自分の冠を御座の前に投げ出しているのは、礼拝の中に含まれる行為である。

①賛美と感謝は繰り返し捧げられている。

②彼らは、繰り返し神に栄光を帰している。

2. 11節

Rev 4:11 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

(1) 神は万物の創造主であり、それを支えている方であることを認め、告白している。

結論：

1. 24人の長老たちとは誰か。

(1) 彼らは、白い衣を着ていた。

①白い衣は、罪赦された聖徒たちが着る義の衣である。

②彼らは天使的な存在ではなく、信仰による義人たちである。

(2) 彼らは、金の冠を頭にかぶっていた。

①この冠は、「ステファノス」である。勝利者に与えられる冠である。

②支配者の冠は、「ダイアDEM」である。

③冠は、長老たちが褒賞のための裁きを受けたことを示している。

④褒賞のための裁きを受けるのは、聖徒たちだけである。

(3) 長老という言葉が天使を指す用例はない。

①長老とは、地域教会のリーダーである。

(4) 24人という人数は、教会全体を指す象徴的数字である。

①ダビデは、レビ人を24の組に分けた。

*1歴24：3～5

*黙1：6では、信者は「祭司の王国」である。

②人間でなければ祭司になれない。

③黙2～3章は地上の教会、黙4～5章は天における教会を描写している。

④黙3：10の約束が成就している（フィラデルフィアの教会への約束）

Rev 3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

2. 褒賞のための裁きとは何か。

(1) ロマ14：8～10

Rom 14:8 もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。

Rom 14:9 キリストは、死んだ人にとっても、生きている人にとっても、その主となるために、死んで、また生きられたのです。

Rom 14:10 それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。

(2) 2コリ5:10

2Co 5:10 なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。

(3) 1コリ3:11~15

1Co 3:11 というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

1Co 3:12 もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、

1Co 3:13 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。

1Co 3:14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

1Co 3:15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。

(4) まとめ

- ①信者のための裁きは、キリストの御座の裁きである。
- ②これは、携挙の後、大患難時代の前に、天において行われる。
- ③救われているかどうかを判定する裁きではない。
- ④クリスチャンとしての生き方を判定する褒賞のための裁きである。
- ⑤24人の長老たちは、冠を受け取っていた。
- ⑥彼らは、継続して神を礼拝していた。
- ⑦私たちも、今から継続した礼拝を始めようではないか。

「巻き物と小羊」

黙5:1~14

1. はじめに

- (1) 黙示録4章から22章までは、将来起こることの預言である。
- (2) 福音書の中心テーマはキリストの初臨、黙示録のテーマはキリストの再臨。
- (3) キリストの再臨を中心に据えて将来の出来事を概観すると以下ようになる。
 - ①4章~18章 キリストの再臨に至るまでの出来事
 - ②19章 キリストの再臨
 - ③20章 千年王国
 - ④21章~22章 新天新地
- (4) 黙示録の目的は、信者をキリストの再臨に備えさせることにある。
- (5) 5章で、巻き物とキリストが登場する。
 - ①4章は、巻き物を紹介するためのイントロダクションであった。

2. アウトライン

- (1) 7つの封印で封じられた巻き物 (1節)
- (2) 誰が巻き物を開くことができるのか (2~4節)
- (3) ほふられたと見える小羊 (5~7節)
- (4) 小羊の礼拝 (8~14節)

3. 結論:

- (1) ヨハネの涙
- (2) 小羊を礼拝する言葉

巻き物と小羊について学ぶ。

I. 7つの封印で封じられた巻き物 (1節)

Rev 5:1 また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。

(1) 「御座にすわっておられる方」

- ①このお方は、父なる神である (黙4:2 参照)。
- ②その右手に巻き物があった。

*ギリシア語で「ビブリオン」。バイブルの語源である。

*紀元1世紀には、パピルスの巻き物が用いられたので、これもパピルスと考える方がよいだろう。

*パピルス糊でつないで巻き物とした(最大20枚、9メール)。

③通常は、巻き物の片面にだけ文字を書いた。

*パピルスの繊維が横に並んでいる側を書く。

*もう片方は、宛名やタイトルを書くために取っておく。

*ただし、本文の文字数が多い場合は、書きにくい側を書くこともあった。

④この巻き物は、両面に文字が書き記されていた。

⑤エゼ2:9~10にも、両面に文字が書かれた巻き物が登場する。

Eze 2:9 そこで私が見ると、なんと、私のほうに手が伸ばされていて、その中に一つの巻き物があった。

Eze 2:10 それが私の前で広げられると、その表にも裏にも字が書いてあって、哀歌と、嘆きと、悲しみとがそれに書いてあった。

⑥エゼキエルの召命は、神の裁きの宣言と深い関係がある。

⑦黙示録の巻き物の内容も、神の裁きである。「7つの封印の裁き」と呼ぶ。

(3) 「7つの封印」

①巻き物は7巻ではなく、1巻である。

②当時、ローマ人もユダヤ人も、巻き物に封印をする習慣を採用していた。

*契約書や遺言は封印された。

*糸で巻き物を縛り、その上に封印をする(蠟の封印)。

*糸を解こうとすると、封印を破らねばならない。

*重要な文書は、7人の印を押した7つの封印で封じた。

*ローマ時代、遺言は7つの封印で封じられることが多かった。

③7つの封印は、巻き物の内容が完璧で権威があることを示している。

(4) 黙示録の今後の展開

①封印が徐々に解かれて行く。

②それに従って、巻き物の内容が部分的に読めるようになってくる。

③しかし、黙示録では、ヨハネは巻き物の内容を一度も読んでいない。

④新しく封印が解かれるたびに、超自然的な現象が起こる。

⑤これらの現象は、巻き物に書かれた内容そのものと推察される。

II. 誰が巻物を開くことができるのか(2~4節)

1. 2~3節

Rev 5:2 また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封印を解

くのにふさわしい者はだれか」と言っているのを見た。

Rev 5:3 しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。

- (1) ひとりの強い御使いが大声で呼ばわった。ガブリエルの可能性がある。
 - ①黙示録には「大声で呼ばれる」ことが20回出て来るが、ここが最初である。
 - ②「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか」
 - ③この巻き物の内容は、「7つの封印の裁き」である。
- (2) その巻き物を開くことのできる者は、被造世界にはいなかった。
 - ①「天にも、地にも、地の下にも、」は被造世界を指す。

2. 4節

Rev 5:4 巻き物を開くのに、見るのに、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。

- (1) 父なる神や聖霊は、巻き物を開くのにふさわしくないのか。
 - ①「ふさわしい」とは、聖であるという意味ではない。
 - ②父なる神も聖霊も、ともに聖なる神である。
 - ③「巻き物を開くにふさわしい」とは、どういう行為を行ったかということと関係している。
- (2) ヨハネは、激しく泣いた。
 - ①ふさわしい者が見つからなかった。

Ⅲ. ほふられたと見える小羊 (5~7節)

1. 5節

Rev 5:5 すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。」

- (1) 24人の長老のひとりがヨハネに声をかけた。
 - ①「泣くのを止めさない」という意味である。
 - ②7つの封印を解くことのできる方がいる。
- (2) 「ユダ族から出た獅子」
 - ①ペテロは、サタンを獅子にたとえている。

1Pe 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

②しかし、獅子のたとえは第一義的にはキリストに属するものである。

Gen 49:9 ユダは獅子の子。／わが子よ。あなたは獲物によって成長する。／雄獅子のように、また雌獅子のように、／彼はうずくまり、身を伏せる。／だれがこれを起こすことができるか。

(3) 「ダビデの根」(新改訳)

① 「ダビデのひこばえ」(新共同訳)

② 「ダビデの若枝であるかた」(口語訳)

Isa 11:1 エッサイの根株から新芽が生え、／その根から若枝が出て実を結ぶ。

Isa 11:10 その日、／エッサイの根は、国々の民の旗として立ち、／国々は彼を求め、／彼のいこう所は栄光に輝く。

③キリストは、ダビデの子孫でありダビデ契約を成就する方(2サム7:12~16)。

④その方は、すでに勝利者となられた。

(4) 「その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます」

①イエスは十字架にかかり、蘇られた。

②その御業と知恵のゆえに、その巻き物を開き、7つの封印を解くことができる。

2. 6~7節

Rev 5:6 さらに私は、御座——そこには、四つの生き物がいる——と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。これに七つの角と七つの目があった。その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊である。

Rev 5:7 小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。

(1) ヨハネは、父なる神の御座と長老たちの間に、子なる神を見た。

(2) 「ほふられたと見える小羊」

①小羊は、今は生きている。

②見かけ上は、犠牲のいけにえのしるしがある。

③「ほふられた」は、「いけにえにするために喉を切り裂かれた」という意味。

④この場合は、小羊の手と足に釘の跡が残っていたということ。

⑤この小羊は、十字架で死に、復活したキリストである。

(3) 「七つの角と七つの目があった」

①7つの角は、キリストの全能、完全な支配を表す。

②7つの目は、キリストの全知を表す。

(4) 「その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊である」

①これは、キリストの遍在を表す比喩的言葉である。

(5) 小羊は、父なる神の右の手から巻き物を受け取った。

①巻き物を開ける資格のある方が、巻き物を受け取ったのである。

(6) 獅子と小羊

①獅子も小羊も、ともにキリストを指す。

②小羊は初臨のキリストを、獅子は再臨のキリストを指す。

IV. 小羊の礼拝 (8~14節)

1. 8~10節

Rev 5:8 彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。

Rev 5:9 彼らは、新しい歌を歌って言った。／「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、

Rev 5:10 私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」

(1) 小羊が巻き物を受け取ったときから、子なる神の礼拝が始まる。

①これまでは、父なる神に礼拝が捧げられていた。

(2) 小羊の前にひれ伏す礼拝者たち

①4つの生き物 (天使たち)

②24人の長老たち (天に上げられた教会)

③彼らは、「立琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを持って、」ひれ伏した。

*この香は、聖徒たちの祈りである (詩 141:2)。

*教会を代表する24人の長老たちが、それぞれ祈りをキリストに捧げた。

(3) 彼らは、新しい歌を歌った。

- ①小羊は、巻き物を受け取って、その封印を解くにふさわしい方である。
- ②彼らは、子羊が行った贖いの業をたたえた。
- ③全人類の中から贖われる人たちが出てきた。
- ④贖われた人たちは、王国、神の祭司とされた。
- ⑤彼らは、千年王国において地上を治めるようになる。

2. 11～13 節

Rev 5:11 また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。

Rev 5:12 彼らは大声で言った。／「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」

Rev 5:13 また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。／「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」

- (1) 多くの御使いたちが、4つの生き物と24人の長老たちが捧げる礼拝に参加した。
 - ①その数は、幾万倍、千の幾千倍であった。
 - ②賛美の内容は、私たちが天で永遠に唱えるものと同じである。

「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です」
- (2) 被造世界に置かれたあらゆる生き物、無生物が、この礼拝に参加した。
 - ①「地の下」を、「黄泉にいる死者の霊」と解釈してはならない。

3. 14 節

Rev 5:14 また、四つの生き物はアーメンと言ひ、長老たちはひれ伏して拝んだ。

- (1) 礼拝のサイクルが最初に戻った。
 - ①小羊の礼拝はいつまでも繰り返される。

結論：

1. ヨハネの涙

- (1) ヨハネは激しく泣き続けた。「涙を流し続けた」。
- (2) その理由は何か。
 - ①神のことばを知りたいという強い渴望を持っていた。
 - ②神の裁きの書が開かれないことへの悲しみがあつた。

*悪に対する裁きが行われぬのではないか。

*いつまでも悪が勝ち続けるのではないか。

③神の国の約束が取り消されることへの恐れがあった。

*「主の日」の後のメシア的王国が到来する。

2. 小羊を礼拝する言葉

Rev 5:12 彼らは大声で言った。／「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」

(1) 力

①私の人生の上に、教会の上に、世界の上に、宇宙の上に力を持っておられる。

(2) 富

①全世界を所有しておられる。

②キリストに内にあるなら、その人はキリストとの共同相続人である。

(3) 知恵

①私が持っている知恵の源は、キリストである。

②知恵に欠ける者は、キリストに求めればよい。

(4) 勢い(威力)

①神に仕えるための肉体的、精神的力は、キリストから与えられる。

(5) 誉れ

①クリスチャン生活のゴールは、キリストをたたえることである。

(6) 栄光

①クリスチャン生活のゴールは、キリストに栄光を帰すことである。

(7) 賛美

①全存在をかけた賛美こそ、クリスチャンの礼拝にふさわしいものである。

Php 2:10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、

Php 2:11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

「封印の裁き1~4」

黙6:1~8

1. はじめに

- (1) 黙示録4章から22章までは、将来起こることの預言である。
- (2) キリストの再臨を中心に据えて将来の出来事を概観すると以下のようなになる。
 - ①4章~18章 キリストの再臨に至るまでの出来事
 - ②19章 キリストの再臨
 - ③20章 千年王国
 - ④21章~22章 新天新地
- (3) これまでの展開
 - ①4章は、巻き物を紹介するためのイントロダクションであった。
 - ②5章で、巻き物とキリストが登場した。
 - ③6章で、7つの封印が解かれる。実際は、最初の6つの封印が解かれる。
 - *ここから大患難時代が始まる。
 - *封印が解かれるに従って、地上で人類が経験する患難の度合いが増す。
 - *今回は、封印の裁き1~4を取り上げる。
- (4) 大患難時代を示す用語
 - ①「【主】の日」(イザ13:6、エレ46:10、アモ5:18)
 - ②「ヤコブの苦しみの時」(エレ30:7)
 - ③「ダニエルの70週目」(ダニ9:27)
 - ④「試練の時」(黙3:10)(フィラデルフィア教会への約束の中で出てきた)
 - ⑤「御怒りの大いなる日」(黙6:17)

2. アウトライン

- (1) 第1の封印(1~2節)
- (2) 第2の封印(3~4節)
- (3) 第3の封印(5~6節)
- (4) 第4の封印(7~8節)

3. 結論:

- (1) 大患難時代はいつ始まるのか。
- (2) 大患難時代の目的は何か。

第1~第4の封印の裁きについて学ぶ。

I. 第1の封印(1~2節)

1. 1節

Rev 6:1 また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と言うのを私は聞いた。

- (1) 第1の封印が小羊によって解かれた。
 - ①ほふられたと見える小羊だけが、封印を解くことができる。
- (2) 4つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と呼びかけた。
 - ①これは、これから登場する者への呼びかけである。
 - ②第1~第4の封印では、封印が解かれるたびに馬に乗っている者が登場する。
 - ③馬に乗っている者は、呼びかけに応じて破壊的な活動を開始する。

2. 2節

Rev 6:2 私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。

- (1) ヨハネが見たこと
 - ①白い馬。勝利の象徴である。
 - ②その馬に乗った者は弓を持っていた。
 - ③彼には冠が与えられた。
 - ④彼は、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。
 - *ローマ時代、凱旋將軍は捕虜を従わせ、白馬に乗って行進した。

(2) その意味

- ①この人物をキリストと解釈する人がいる。
- ②しかし、キリストは大患難時代の最初ではなく、最後に王として登場される。

Rev 19:11 また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。

- ③しかし、黙6:2に登場するこの人物は、反キリストである。
 - *ヨハネは書簡の中で「反キリスト」という言葉を使用している。
 - *黙示録には「反キリスト」という言葉は出てこない。
 - *言葉は出てこないが、その人物は登場する。
 - *彼は、大患難時代における主役である。
- ④彼に、冠が与えられた。
 - *冠には、2種類のものがある。

*キリストがかぶる冠は、「ダイアDEM」である(王族の冠)。

*勝利者がかぶる冠は、「ステファノス」である。

・月桂冠も同じ言葉である(月桂樹の枝をリング状に編んだ冠)。

・競技会の勝利者に与えられた冠である。

⑤白馬に乗った人物は、弓だけで矢を持っていない。

*彼は、イスラエルとの平和条約を結ぶことを意図しているのであろう。

*戦争をしないで彼が作る世界統一政府は、短命で終わる。

*第2の封印の裁き以降に、平和が取り去られる。

II. 第2の封印(3~4節)

1. 3節

Rev 6:3 小羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が、「来なさい」と言うのを聞いた。

(1) 第2の封印が解かれた。

①4つの生き物の第2のものが、次の人物を呼び出した。

2. 4節

Rev 6:4 すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。これに乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。人々が、互いに殺し合うようになるためであった。また、彼に大きな剣が与えられた。

(1) ヨハネが見たこと

①火のように赤い馬

*赤い色は、流血を象徴している。

②その上に乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。

*人々が互いに殺し合うようになるため。

③その人物に、大きな剣が与えられた。

*白い馬に乗った人物とは対照的である。

(2) その意味

①反キリストは、ユダヤ人と契約を結ぶまでは平和と安全を約束していた。

②契約を結んだ後で、その約束が嘘であることがすぐに明らかになる。

③平和が取り去られ、戦争が起こる。

*大患難時代には3つの戦争が起こる。

*これが第1の戦争である(第一次世界大戦と混同しないように)。

*中間期に第2の戦争が起こる。

*最後に第3の戦争が起こる。それがハルマゲドンの戦いである。

④戦争は、経済不況と食糧不足をもたらす。

⑤神はサタンが地上を破壊することを許可されたが、依然として歴史を支配しておられる主権者であることを覚えよう。

Ⅲ. 第3の封印(5~6節)

1. 5節

Rev 6:5 小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい」と言うのを聞いた。私は見た。見よ。黒い馬であった。これに乗っている者は量りを手に持っていた。

(1) 第3の封印が解かれた。

①4つの生き物の第3のものが、次の人物を呼び出した。

(2) ヨハネが見たこと

①黒い馬

*黒い色は嘆きと悲しみの象徴である。

*ここでは飢饉をもたらす嘆きである。

②その上に乗っている者は、量りを手に持っていた。

*量りもまた、飢饉を象徴している。

*世界戦争が起こると、飢饉が襲い、多くの人が餓死する。

2. 6節

Rev 6:6 すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の間で、こう言うのを聞いた。「小麦一柀は一デナリ。大麦三柀も一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

(1) ここでヨハネはひとつの声を聞いた。

①4つの生き物の間から上がってくる声は、父なる神の声である。

(2) 「小麦一柀は一デナリ。大麦三柀も一デナリ」

①これは、飢饉のときの高騰した穀物の価格である。

②「柀」(コイニクス)の量は約1リットル。

③「デナリ」は労働者の日当である。

④一日働いても、小麦約1リットルか大麦3リットルしか買えない。

⑤一家の一日の食糧にも満たない。

⑥これは、平時の10倍の価格である。

(3) 「オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない」

- ①これは、飢饉に制限を設ける命令であろう。
- ②オリーブもぶどうも、根の深い植物である。
- ③穀物が枯れるような飢饉であっても、この2つまで枯れることはない。
- ④最低の食物と医薬品が、神によって保障されるということであろう。

IV. 第4の封印(7~8節)

1. 7節

Rev 6:7 小羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が、「来なさい」と言うのを聞いた。

- (1) 第4の封印が解かれた。
 - ①4つの生き物の第4のものが、次の人物を呼び出した。

2. 8節

Rev 6:8 私は見た。見よ。青ざめた馬であった。これに乗っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。彼らに地上の四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。

- (1) ヨハネが見たこと
 - ①青ざめた馬(青白い馬)(緑がかった青)
 - *「蒼ざめた馬」という表記の方がよい。
 - *青白い色は、死の象徴である。
 - ②その上に乗っている者の名は、死という。
 - ③彼の後には、ハデスがつき従った。
 - *ハデスは、旧約聖書の「よみ(陰府)」「シオール」と同じである。
 - *死者の魂がとどまる場所である。
- (2) 第4の封印の裁きは、さらに厳しいものとなる。
 - ①地上の4分の1の人が殺される(現在73億人/約18億人が死ぬ)。
 - ②「剣、飢饉、死病、地上の獣」のいずれかによって殺される。
 - ③この4つがひとつになっているのは、裁きの厳しさを表すためである。
 - ④戦争と飢饉で人が死ぬと、死体が放置され疫病が広がる。野獣がそれを広げる。

結論：

1. 大患難時代はいつ始まるのか。

(1) ダニ9：24~27と大患難時代の関係

Dan 9:24 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。

Dan 9:25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。

Dan 9:26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。

Dan 9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

- ①最初の69週(7週と62週)は、今はすでに過去のものとなっている。
- ②最後の1週(70週目)が残っている。
- ③最後の1週とは、7年間の大患難時代のことである。
- ④「来るべき君主」(26節)が登場する。反キリストである。
- ⑤彼は、ユダヤ人たち(多くの者)と契約を結ぶ。反対するユダヤ人もいる。
 - *これは、平和条約である。
 - *ユダヤ人たちは、神ではなく、この世の政治権力に頼るのである。
- ⑥彼は、3年半でこの契約を破棄する。
- ⑦後半の3年半で、彼はユダヤ人たちに偶像礼拝を強要し、従わない者たちを迫害する。

(2) 大患難時代は、反キリストがユダヤ人たちと契約を結んだ時から始まる。

- ①ダニエルの70週目は、大患難時代の7年と合致する。

(3) イザ28：14~22も、反キリストとユダヤ人たちの契約を預言している。

- ①地上でユダヤ人たちがこの契約を結んだとき、天において、神は契約の破棄と全世界に下る裁きを宣言される。

(4) 1948年にイスラエル共和国が建国された。

- ①それ以降、ユダヤ人たちが反キリストと契約を結ぶことが可能な時代に入った。

2. 大患難時代の目的は何か。

(1) 悪人とその悪行を地上から一掃するため

①罪人たちは、大患難時代を通して根絶やしにされる。

Isa 13:9 見よ。【主】の日が来る。残酷な日だ。／憤りと燃える怒りをもって、／地を荒れすたらせ、／罪人たちをそこから根絶やしにする。

②信者は、大患難時代を通過する必要はない。

③その前に、教会は擧げられる。

*御座の回りにいる24人の長老たちは、擧げられた教会である(黙4:4)。

(2) 世界大のリバイバルを来たらせるため

①黙7章のテーマである。

②144,000人のユダヤ人が登場する。

(3) イスラエルの民の頑なさを打ち壊すため

①大患難時代を通して、イスラエルの民は救いへと導かれる。

Dan 12:7 すると私は、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人が語るのを聞いた。彼は、その右手と左手を天に向けて上げ、永遠に生きる方をさして誓って言った。「それは、ひと時とふた時と半時である。聖なる民の勢力を打ち砕くことが終わったとき、これらすべてのことが成就する。」

(4) 私たちの使命

①今の中に、福音を伝える。

②今救われる人が出なくても、失望しない。

「封印の裁き 5～6」

黙6：9～17

1. はじめに

- (1) 黙示録4章から22章までは、将来起こることの預言である。
- (2) キリストの再臨を中心に据えて将来の出来事を概観すると以下のようなになる。
 - ①4章～18章 キリストの再臨に至るまでの出来事
 - ②19章 キリストの再臨
 - ③20章 千年王国
 - ④21章～22章 新天新地
- (3) これまでの展開
 - ①6章で、巻き物の封印が解かれる。最初の6つの封印。
 - *ここから大患難時代が始まる。
 - ②7つの封印は、前半の4つと後半の3つに二分されている。
 - *前半では、4頭の馬に乗る4人の人物が登場した。
 - *後半では、天での様子が場面転換し、次に地上の様子に戻る。
 - ③今回は、後半(封印の裁き5～6)を取り上げる。
- (4) 黙示録の解釈は、他の聖書箇所を参考にしながら行う必要がある。
 - ①黙示録の解釈も、字義通りに行う必要がある。
 - ②象徴は象徴として解釈する。

2. アウトライン

- (1) 第5の封印(9～11節)
- (2) 第6の封印(12～17節)

3. 結論：

- (1) マタ24章と黙6～7章の関係
- (2) 携挙の時期

第5～第6の封印の裁きについて学ぶ。

I. 第5の封印(9～11節)

1. 9～10節

Rev 6:9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。

Rev 6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地

に住む者に私たちの血の復讐をなさないのですか。」

- (1) ここで場面は、地から天に移行する。
- ①大患難時代を通して継続している状況の描写である。
- (2) ヨハネは、キリストに対する信仰のゆえに殉教の死を遂げた人々の幻を見た。
- ①彼らは、祭壇の下にいた。
 - ②旧約時代のいけにえの血が祭壇の土台に注がれたことと関係している。

Exo 29:12 その雄牛の血を取り、あなたの指でこれを祭壇の角につける。その血はみな祭壇の土台に注がなければならない。

Lev 4:7 祭司はその血を、会見の天幕の中にある【主】の前のかおりの高い香の祭壇の角に塗りなさい。その雄牛の血を全部、会見の天幕の入口にある全焼のいけにえの祭壇の土台に注がなければならない。

- ③第4の封印の裁き(死)の直後に殉教者たちが登場している。
- ④これらの人々は、地から来た大患難時代の殉教者たちである。
- ⑤大患難時代にも救われる人たちが多く出るが、殉教の死を遂げる人たちも多い。
- ⑥教会時代のどの時代においても、殉教者たちが出ている。
 - *20世紀~21世紀にかけて、最も多くの殉教者たちが出ている。
 - *しかし、それ以上の殉教者が出る時代がやって来る。

- (3) 殉教者たちは大声で叫んで言った。
- ①「いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさないのですか」
 - ②迫害者たちがまだ生きていて、地に住んでいる。
 - ③天に上げられた殉教者たちは、神の義が行われることを望んでいる。

2. 11節

Rev 6:11 すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい」と言い渡された。

- (1) 殉教者たちに回答が与えられた。
- ①彼らの願いが叶うまでに、今しばらくの時間がかかる。
 - ②殉教者の数が満ちるまで待つ必要がある。
 - *大患難時代はまだ続くということである。
 - ③彼らの願いが成就するのは、キリストの再臨の時である。
 - *その時、神は地を裁かれる。

(2) 大患難時代においては、キリストへの信仰の告白は非常に困難なものとなる。

- ①信者の大半が、殺されるであろう。
- ②7章に入ると、白い衣を着た大群衆が登場する。殉教者の群である。
- ③13章に入ると、獣を拝まない者は殺されることになる。

(3) 彼らひとりひとりに白い衣が与えられた。

- ①白い衣は、義の象徴である。
- ②天において、殉教者たちはどのような体を持つようになるのか。
 - * 携挙された聖徒たちは、すでに復活の体を持っている。
 - * 大患難時代の殉教者たちは、まだ復活の体を持っていない。
- ③彼らが復活の体を持つのは、大患難時代の最後である。

Rev 20:4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

- ④白い衣が与えられたということは、なんらかの体を持っているということ。
 - * 天に住むためにふさわしい一時的な体（中間的な体）であろう。
 - * 再臨の時に、これが復活の体に置き代わるのであろう。

VI. 第6の封印（12～17節）

1. 12～14節

Rev 6:12 私は見た。小羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そして、太陽は毛の荒布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。

Rev 6:13 そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。

Rev 6:14 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。

(1) 第6の封印の裁きでは、場面は再び地上に戻る。

- ①第6の封印の裁きの内容は、それまでの裁きとは次元が異なる。
- ②戦争、飢饉、死、殉教などは、主に人間の罪と行為が原因となっていた。
- ③第6の封印の裁きから、神の介入による破壊的な要素が登場するようになる。
- ④これらの天変地異に関する預言を、比喩的に解釈してはならない。
 - * 比喩的解釈の一例は、天での異変を政府の変更と理解する。

*また、地での異変を伝統や共通ルールの破壊と理解する。

⑤字義通りの解釈を避けたがる理由は、罪に対する神の裁きの厳しさを認めたくないからであらう。

*神は、罪人を赦す愛なる神である。

*と同時に、神は、罪を裁く義なる神でもある。

(2) ここに書かれた天変地異は、終末預言のことばと調和している。

①地震(マタ24:7にあるキリストのことば)

Mat 24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。

②地震と太陽の暗転(ヨエルの預言)

Joe 2:2 やみと、暗黒の日。／雲と、暗やみの日。／山々に広がる暁の光のように数多く強い民。／このようなことは昔から起こったことがなく、／これから後の代々の時代にも再び起こらない。

Joe 2:10 その面前で地は震い、天は揺れる。／太陽も月も暗くなり、星もその光を失う。

Joe 2:30 わたしは天と地に、不思議なしるしを現す。／血と火と煙の柱である。

Joe 2:31 【主】の大いなる恐るべき日が来る前に、／太陽はやみとなり、月は血に変わる。

③天は巻き物のように巻かれる(イザ34:4)

Isa 34:4 天の万象は朽ち果て、／天は巻き物のように巻かれる。／その万象は、枯れ落ちる。／ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。／いちじくの木から葉が枯れ落ちるように。

2. 15~17節

Rev 6:15 地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、

Rev 6:16 山や岩に向かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。

Rev 6:17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

(1) 不信者たちは、神の裁きの時が来たことを恐れるようになる。

①あらゆる階層の人たちが、ほら穴と山の岩間に隠れる。

②この時、地位も、富も、成功も、なんの役にも立たない。

③神に無関心で、地位や富や成功を求める現代人への警告である。

(2) 不信者たちは、神の恵みによりすぎるよりも、隠れることを選ぶ。

①今は「恵みの時」である。

②「恵みの時」の特徴は、神の最終的な裁きがまだ下っていないということ。

③義人への褒賞も、罪人への裁きも、未完である。

- ④今という時に、神の恵みによりすがろうではないか。
- (3) 彼らは、死ぬこと以上に、神の裁きを恐れるようになる。
 - ①彼らは、死を求めたが、死は最終的な解決にはならない。
 - *死んでも、生存の状態が変化するだけある。
 - *彼らは、白い御座の裁きを受けるのである。
- (4) 「御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう」
 - ①「【主】の日」とは、24時間のことではなく、ある期間(時代)のことである。
 - ②それは、7年間の大患難時代を指す。
 - ③この箇所最後は、「だれがそれに耐えられよう」という問いかけで終わる。
 - ④黙7章では、それに耐えられる人たちが登場する。
 - *144,000人のユダヤたち
 - *白い衣を着た大群衆

結論：

1. マタ24章と黙6～7章の関係

- (1) 黙示録の解釈は、聖書の他の箇所を参考にして行う必要がある。
 - ①前回は、ダニ9：24～27と大患難時代の関係について学んだ。
 - ②今回は、マタ24章(オリーブ山での説教)と黙6～7章の関係について学ぶ。
- (2) 両方の箇所が記す出来事の順番には、相関関係がある。
 - ①偽キリスト(マタ24：4～5) — 白い馬に乗った人(黙6：1～2)
 - ②戦争と戦争のうわさ(マタ24：6～7a) — 赤い馬に乗った人(黙6：3～4)
 - ③飢饉(マタ24：7b) — 黒い馬に乗った人(黙6：5～6)
 - ④飢饉と疫病(マタ24：7b、ルカ21：11) — 青い馬に乗った人(黙6：7～8)
 - ⑤迫害と殉教の死(マタ24：9～10) — 殉教者(黙6：9～11)
 - ⑥恐れと天変地異(マタ24：29、ルカ21：11) — 恐れ(黙6：12～17)
 - ⑦世界宣教(マタ24：14) — 144,000人(黙7：1～8)

2. 携挙の時期

- (1) 私たちは、教会の携挙は大患難時代の前に起こると信じる。
- (2) その理由
 - ①黙4：4の「24人の長老たち」は、携挙された聖徒たちである。
 - ②黙2～3章のテーマは7つの教会であったが、大患難時代の預言(6～19章)で

は教会が一度も登場しない。地上に教会は存在しない。

*教会という言葉は、黙示録に19回登場する。

*1~3章で18回登場する。

*最後は黙22:16である。

Rev 22:16 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

③1テサ1:10

1Th 1:10 また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

④1テサ5:9~10

1Th 5:9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。

1Th 5:10 主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。

(3) 携挙の時期が重要な理由は、大患難時代を逃れる方法と関係しているから。

①最善の選び：携挙の前にキリストを信じる。

②次善の選び：大患難時代の間、殉教の死を覚悟してキリストを信じる。

(4) 私たちは、今という時を生かして、福音を宣べ伝える必要がある。

「144,000人のユダヤ人」

黙7:1~8

1. はじめに

(1) 6章で、巻き物の封印が解かれる。最初の6つの封印。

- ①ここから大患難時代が始まる。
- ②大患難時代でも、人々は救われるのか。
- ③答えは、「イエス」である。

(2) 7章の内容

①6章17節の質問

Rev 6:17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

*その意味は、誰がメシア的王国(千年王国)に入れるだろうかということ。

②7章は、この質問への回答である。

*誰が伝道するのか。

*誰が救われるのか。

③7章は、2つのグループに焦点を合わせている。

*7章1節~8節 144,000人のユダヤ人(伝道する人たち)

・彼らは、大患難時代におけるイスラエルの残れる者たちである。

*7章9節~17節 大患難時代の聖徒たち(救われる人たち)

・彼らは、大患難時代に殉教の死を遂げる諸国からの信者たちである。

④7章は、物語が進展しているのではなく、挿入句である。

*大患難時代の最初の3年半に起こることである。

2. アウトライン

- (1) 4人の御使いの幻(1~3節)
- (2) 144,000人のユダヤ人(4節)
- (3) 12部族(5~8節)

3. 結論:

- (1) 大患難時代における聖霊の働き
- (2) ご自身の民に対する神の守り

144,000人のユダヤ人について学ぶ。

I. 4人の御使いの幻(1~3節)

1. 1節

Rev 7:1 この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押さえ、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。

(1) 「この後、私は見た」

- ①物事の時間的流れではなく、ヨハネが見た幻の順番を示している。
- ②この幻は、神の裁きが迫っていることを示唆している。
- ③「地の四方の風」がそれを示している。大嵐が地上を襲おうとしている。

(2) 4人の御使い

- ①彼らは、「地の四隅」に立っている。
 - *東西南北の位置に立っているということ。
- ②地の四方の風を堅く押さえるとは、北からも、南からも、東からも、西からも風が吹かないようにしているということ。
- ③神の裁きが起こるのを押しとどめている。
- ④天使は自然界を支配する役割を与えられている。
 - *火を支配する権威を持った御使い(黙14:18)
 - *水をつかさどる御使い(黙16:5)

2. 2～3節

Rev 7:2 また私は見た。もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上って来た。彼は、地をも海をもそこなう権威を与えられた四人の御使いたちに、大声で叫んで言った。

Rev 7:3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」

(1) 「もうひとりの御使い」

- ①生ける神の印とは、印章指輪であろう。
- ②日の出るほうから上って来たとは、東から上って来たという意味である。
- ③この天使を日出ずる国である「日本」と関連付けようとする人たちがいる。
 - *積義上、なんの根拠もない。

(2) 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない」

- ①この天使は4人の天使たちに大声で叫んで言う。
- ②神のしもべたちの額に印が押されるまでは、裁きを始めてはならない。
- ③額に印を押すとは、神の所有権と守りを示す。
 - *彼らは、伝道のために印を押される。

*彼らは、大患難の中で守られるために印を押される。

④額に印を押されるのが144,000人のユダヤ人である。

II. 144,000人のユダヤ人(4節)

1. 4節

Rev 7:4 それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。

(1) ヨハネは、印を押された人々の数を聞くと、144,000人という数であった。

①イスラエル(ヤコブ)の子孫の12部族からの人数である。

(2) 144,000人という数は、象徴的な数なのか、文字通りの数なのか。

①象徴的な数と解釈する人は、144,000人を教会と考える。

②しかし、教会は大患難時代の前に携挙されている。

③さらに、12部族を教会と同一視する聖書箇所は存在しない。

④12部族、各部族から12,000人、合計144,000人。

⑤これは極めて具体的な数字であり、字義通りに解釈することが最も自然である。

⑥ちなみに、エホバの証人は、これを救われる人の数だと教えていた。

*信者の数がそれ以上になると、それまでの教理を変更した。

*144,000人は天的救いを受ける人のことである。

*地上の楽園で永遠の命を貰えるその他大勢もいる。

(3) 紀元70年のエルサレム崩壊以降、ユダヤ人は自分の部族が分からなくなった。

①系図が破壊されたからである。

②しかし、神は知っておられる。

(4) 12部族のリストに、エフライム族とダン族が登場しない。

①ヨセフからマナセ族とエフライム族が出た。

②このリストでは、マナセ族とヨセフ族となっている。

③ヨセフ族=エフライム族なので、問題はない。

④しかし、ダン族の場合は、それを加えると13部族になる。

(5) ダン族が省略されている理由について、さまざまな意見がある。

①反キリストはダン族から出るから。

②ダン族は、偶像礼拝に走った最初の部族であるから。

③以上の見解は、あくまでも主観的な類推である。

(6) 私たちの見解

①旧新約聖書を通して見ると、イスラエルの部族のリストは29回出て来る。

②その中で、12部族を越えたリストはひとつもない(J. B. Smith)。

③聖書の記述は、12という数字にこだわっている。

④数を合わせるために、通常はレビ族が省かれる。祭司の部族。

⑤申33章のモーセの祝福のことば

*レビ族が入り、シメオン族が省かれている。

⑥エゼ47章と48章の千年王国での相続地の描写

*レビ族が省かれている。

⑦ダン族が省かれている理由は、数を12に合わせるためである。

(7) ちなみに、ダン族もまた、千年王国において土地を相続するようになる。

Eze 48:1 部族の名は次のとおりである。北の端からヘテロン¹の道を経てレボ・ハマテに至り、ハマテを経て北のほうへダマスコの境界のハツアル・エナンまで——東側から西側まで——これがダンの分である。

(8) 救われるユダヤ人は、144,000人以上いる。

①144,000人は、神の守りによって、大患難時代を生き延びるユダヤ人である。

*彼らは、世界宣教に出て行く神のしもべたちである。

②それ以外の救われたユダヤ人は、殉教の死を遂げる。

Ⅲ. 12部族(5~8節)

1. 5節

Rev 7:5 ユダの部族で印を押された者が一万二千人、ルベンの部族で一万二千人、ガドの部族で一万二千人、

(1) ユダは、ヤコブの4番目の息子で、母はレアである。

(2) ルベンは、ヤコブの長男で、母はレアである。

(3) ガドは、ヤコブの7番目の息子で、母はジルパ(レアの女奴隷)である。

2. 6節

Rev 7:6 アセルの部族で一万二千人、ナフタリの部族で一万二千人、マナセの部族で一万二千人、

- (1) アセルは、ヤコブの8番目の息子で、母はジルパである。
- (2) ナフタリは、ヤコブの5番目の息子で、母はビルハ(ラケルの女奴隷)である。
- (3) マナセは、エジプトで生まれたヨセフの長子である。

3. 7節

Rev 7:7 シメオンの部族で一万二千人、レビの部族で一万二千人、イッサカルの部族で一万二千人、

- (1) シメオンは、ヤコブの2番目の息子で、母はレアである。
- (2) レビは、ヤコブの3番目の息子で、母はレアである。
- (3) イッサカルは、ヤコブの9番目の息子で、母はレアである。

4. 8節

Rev 7:8 ゼブルンの部族で一万二千人、ヨセフの部族で一万二千人、ベニヤミンの部族で一万二千人、印を押された者がいた。

- (1) ゼブルンは、ヤコブの10番目の息子で、母はレアである(6番目の息子)。
- (2) ヨセフは、ヤコブの11番目の息子で、母はラケルである(最初の息子)。
- (3) ベニヤミンは、ヤコブの12番目の息子で、母はラケルである(2番目の息子)。

結論：

1. 大患難時代における聖霊の働き

- (1) 大患難時代においても人が救われるのは、聖霊の働きがあるからである。
 - ①救いの構造は、不変である。信仰と恵みによって救われる。
 - ②罪人に救いを与えるのは、聖霊である。
- (2) 教会の携挙と同時に、聖霊も地から上げられた。
 - ①ペンテコステの日に聖霊が降臨した。
 - ②携挙と同時に、聖霊が地から上げられた。
 - ③大患難時代における聖霊の働きは、ペンテコステ以前のそれと同じである。
 - ④ペンテコステ以前にも人は救われていた。
 - ⑤大患難時代においても人が救われることは、疑う余地のないことである。

2. ご自身の民に対する神の守り

- (1) 人類の歴史を通して、神はご自身の民を守って来られた。
 - ①エノクは生きたまま天に上げられた(創5:24)。

- ②ノアとその家族は、箱舟に入り大洪水から守られた(創7章、8章)。
- ③ロトは、ソドムに裁きが下る前にそこから取り出された(創19章)。
- ④イスラエル人の初子は、子羊の血によって裁きから守られた(出12章)。
- ⑤2人のスパイは守られ、ラハブもエリコが崩壊する日に守られた(ヨシ2章、6章)。
- ⑥大患難時代においては、144,000人のユダヤ人たちが守られる。

(2) イスラエルの残れる者という概念

- ①預言者エリヤの時代に、神は7,000人の忠実な信者を残しておられた。

1Ki 19:18 **しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残しておく。これらの者はみな、バアルにひざをかがめず、バアルに口づけしなかった者である。」**

- ②現代のイスラエルの残れる者は、メシアニック・ジューたちである。
- ③大患難時代のイスラエルの残れる者は、144,000人のユダヤ人たちである。
 - *イスラエルの本来の使命は、諸国の民を祝福することである。
 - *彼らは、イエスを拒否した時から、この使命を放棄した。
 - *大患難時代に、144,000人のユダヤ人たちは、この使命に立ち返る。
- ④神の御心は、必ず成就する。

「白い衣を着た大群衆」

黙7:9~17

1. はじめに

(1) 6章で、巻き物の封印が解かれる。最初の6つの封印。

- ①ここから大患難時代が始まる。
- ②大患難時代でも、人々は救われるのか。
- ③答えは、「イエス」である。

(2) 7章の内容

①6章17節の質問

Rev 6:17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

*その意味は、誰がメシア的王国(千年王国)に入れるだろうかということ。

②7章は、この質問への回答である。

③7章は、2つのグループに焦点を合わせている。

*7章1節~8節 144,000人のユダヤ人(伝道する人たち)

・彼らは、大患難時代におけるイスラエルの残れる者たちである。

*7章9節~17節 大患難時代の聖徒たち(救われる人たち)

・彼らは、大患難時代に殉教の死を遂げる諸国からの信者たちである。

・携挙の後も、聖書や注解書は地上に残される。

・144,000人のユダヤ人たちがいる。

・ふたりの証人の奉仕がある(黙11章)。

④7章は、物語が進展しているのではなく、挿入句である。

*大患難時代の最初の3年半に起こることである。

2. アウトライン

- (1) 諸国からの大群衆(9~10節)
- (2) 天使たちの礼拝(11~12節)
- (3) 大患難時代の殉教者(13~14節)
- (4) 殉教者が受ける祝福(15~17節)

3. 結論:福音について

- (1) 神の福音
- (2) 御国の福音
- (3) キリストの福音
- (4) 大患難時代に伝えられる福音

大患難時代の聖徒たちについて学ぶ。

I. 諸国からの大群衆 (9~10節)

Rev 7:9 その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。

Rev 7:10 彼らは、大声で叫んで言った。／「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」

1. ヨハネが見た次の幻は、144,000人のユダヤ人の伝道によって救われる大群衆である。

(1) 「あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、」救われた人たちである。

①この大群衆は、144,000人の場合とは異なり、数えきれぬほどの人数である。

②この中には、144,000人以外のユダヤ人も含まれる。

2. 大群衆の描写

(1) 白い衣を着ている。

①信仰によって義とされたこと、救われていることの象徴

②黙示録の中では、「白い衣」は「救い」の象徴である。

③黙6:11 第5の封印

Rev 6:11 すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい」と言い渡された。

(2) しゅろの枝を手に持っている。

①勝利者となったことの象徴

(3) 「御座と小羊との前に立っていた」

①御座の前とは、父なる神の前である。

②小羊の前とは、子なる神の前である。

3. 大群衆の叫び

(1) 「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある」

①御座にある私たちの神とは、父なる神のこと。

②小羊とは、子なる神のこと。

③彼らは、救いは父なる神と子なる神によって与えられたと大声で証言している。

(2) 彼らは、黙6:9の殉教者たちと同じグループの人々である。

Rev 6:9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。

①彼らが、大患難時代の殉教者であることは、黙7:13~14になってから分かる。

II. 天使たちの礼拝 (11~12節)

Rev 7:11 御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、

Rev 7:12 言った。／「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」

1. 天にいる天使たち

(1) 「御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていた」

- ①御座は父なる神がおられる場。
- ②長老たちは、24人の長老たち。
- ③4つの生き物は、封印を解いた天使たち。

(2) 彼らも御座の前にひれ伏し、神を礼拝した。

- ①黙5章で、4つの生き物と24人の長老たちは小羊を礼拝した。
- ②ここでは、その周りに立っている天使たちが礼拝に参加した。
- ③黙5:12にある7つの言葉は、黙7:12の7つの言葉に似ている。

Rev 5:12 彼らは大声で言った。／「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」

- ④私たちの神は、大いなるお方である

2. 黙7:9~12は、この大群衆が誰であることを示すためのイントロダクションである。

III. 大患難時代の殉教者 (13~14節)

Rev 7:13 長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったいどれですか。どこから来たのですか」と言った。

Rev 7:14 そこで、私は、「主よ。あなたこそ、ご存じです」と言った。すると、彼は私にこう言った。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。」

1. 13節

(1) 長老のひとりの質問

- ①「白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか」
- ②この質問から、長老と大群衆とは別のグループの人たちであることが分かる。
- ③24人の長老たちは携挙された教会、白い衣を着た大群衆はそれ以外の聖徒たち。

(2) これはユダヤ的教授法のひとつである。

- ①ラビは、生徒が知らない質問を投げかける。
- ②生徒は、答えを求める。
- ③ラビは、答えを与える。

2. 14節

(1) ヨハネはその質問に答えることができない。

- ①「主よ。あなたこそ、ご存じです」
- ②これは、自らの無知を告白し、回答を求めている言葉である。
- ③試練の時に、「あなたこそ、ご存じです」と言える人は幸いである。
- ④そこで、長老はヨハネに教える。

(2) 「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、」

- ①「大きな患難」とは、大患難時代のことである。
- ②マタ 24：21 でイエスが預言しておられた時代である。

Mat 24:21 そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。

- ③ある人たちは、この大群衆はすべての時代の聖徒たちであると解釈する。
- ④「大きな患難から抜け出て来た者たち」を字義通りに解釈しないとそうなる。

(3) 「その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです」

- ①衣を血で洗った場合、通常は白くならない。
- ②これは、靈的純潔を示す比喩的言葉である。
- ③レビ 17：14

Lev 17:14 すべての肉のいのちは、その血が、そのいのちそのものである。それゆえ、わたしはイスラエル人に言っている。『あなたがたは、どんな肉の血も食べてはならない。すべての肉のいのちは、その血そのものであるからだ。それを食べる者はだれでも断ち切られなければならない。』

- ④へブ 9：22

Heb 9:22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。

⑤使 20 : 28

Act 20:28 あなたがたは自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。

(4) 大患難時代においても、多くの人たちが救いに与る。

①144,000人の伝道によって世界規模のリバイバルが起こる。

②しかし、信仰のゆえに多くの殉教者が出る。

(5) この場面を千年王国の始まりと解釈する人がいる。

①千年王国は地上に成就する王国である。

②ここでの場面は、天である。

③大患難時代における天での情景の幻である。

IV. 殉教者が受ける祝福 (15~17 節)

Rev 7:15 だから彼らは神の御座の前において、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。

Rev 7:16 彼らはもはや、飢えることもなく、渴くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。

Rev 7:17 なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。」

1. 7つの祝福

(1) 距離の祝福

①「神の御座の前」

②かつては、反キリストの前に立たされていた。

(2) 奉仕の祝福

①「聖所で昼も夜も、神に仕えている」

②天に昼と夜があるという意味ではない。永続した奉仕が与えられる。

③天は休息の場所であると同時に、奉仕の場所でもある。

④ここでの聖所とは、神の臨在を表現する言葉である。

(3) 交わりの祝福

- ①「御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られる」
- ②幕屋を張るとは、彼らの内に宿ということ。

(4) 必要の満たしの祝福

- ①「彼らはもはや、飢えることもなく、渴くこともなく、」
- ②大患難時代においては、飢えと渴きに襲われていた。
- ③その苦しみがなくなる。

(5) 安全の祝福

- ①「太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません」
- ②神の臨在が彼らをおおう。
- ③イザ49:10が背景にある。
- ④詩121:5~6が背景にある。

(6) 導きの祝福

- ①「なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです」
- ②詩23篇が背景にある。
- ③良き羊飼いのたとえが背景にある(ヨハ10章)。

(7) 喜びの祝福

- ①「また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです」
- ②大患難時代に流した涙は、神によってぬぐい取られる。

結論：福音について

1. 神の福音

- (1)「神の福音」はひとつである。
- (2)「神の福音」という用語は、新約聖書に8回出て来る。
 - ①マコ1:14、ロマ1:1、15:16、1ペテ4:17など。
- (3)福音はひとつであるが、時代によって強調点が異なる。
- (4)救いの方もひとつである。
 - ①信仰の対象は、神である。
 - ②救いの土台は、キリストの贖いの業である。

- ③救いの方法は、信仰と恵みによる。
- ④信仰の内容は、時代とともに変化する。

2. 御国の福音 (the gospel of the kingdom)

- (1) 「御国の福音」という用語は、新約聖書に3回出て来る。
 - ①すべてマタイの福音書である。
 - ②マタ4:23、9:35、24:14
- (2) 「神の国の福音」という用語は、新約聖書に2回出て来る。
 - ①すべてルカの福音書である。
 - ②ルカ4:43、16:16
- (3) 「御国の福音」 = 「神の国の福音」である。
- (4) 初臨の際に語られた福音は、「御国の福音」である。
 - ①バプテスマのヨハネも主イエスも、「神の国は近づいた」と宣言した。
 - ②神の国(千年王国)をもたらすためにイエスはメシアとして来られた。
 - ③イエスを信じるなら、千年王国がすぐに成就し、そこに入ることができる。
 - ④しかし、ユダヤ人たちはイエスを拒否した。
 - ⑤その結果、千年王国は延期され、教会時代に移行した。
 - *異邦人が救われる時代となった。

3. キリストの福音

- (1) 「キリストの福音」という用語は、新約聖書に9回出て来る。
 - ①マコ1:1、ロマ15:19、ガラ1:7など
- (2) 「神の恵みの福音」という用語は、新約聖書に1回出て来る。
 - ①使20:24
- (3) 「キリストの福音」 = 「神の恵みの福音」である。
- (4) これは、教会時代になって語られる福音である。
- (5) 内容は、イエスを信じるなら天に上げられ、そこで永遠に主とともに住むようになるというものである。

4. 大患難時代に伝えられる福音

- (1) 大患難時代に伝えられるのは、「御国の福音」である。
- (2) マタ24:14

Mat 24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

- ①ここでの「終わりの日」とは、携挙のことではなく再臨のことである。

- ②携挙は、いつでも起こり得る。
- ③世界宣教の完成は、大患難時代に起こり、それから再臨が成就する。
- (3) 神のしもべたちは、初臨の際と同じようなメッセージを語る。
 - ①キリストは千年王国を地上に確立するために、間もなく戻って来られる。
 - ②大患難時代の中にキリストを信仰によって受け入れるなら、千年王国の祝福に与ることができる。
- (4) 大宣教命令はイエスの弟子たちによって実行に移された。

Mat 28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

Mat 28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

Mat 28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

- (5) 大患難時代においては、144,000人のユダヤ人たちが同様の役割を果たすことになる。

「ラッパの裁き1～4」

黙8:1～13

1. はじめに

- (1) 福音書の中心テーマはキリストの初臨、黙示録のテーマはキリストの再臨。
- (2) キリストの再臨を中心に据えて将来の出来事を概観すると以下ようになる。
 - ①4章～18章 キリストの再臨に至るまでの出来事
 - ②19章 キリストの再臨
 - ③20章 千年王国
 - ④21章～22章 新天新地
- (3) 6章で、巻き物の封印が解かれる。最初の6つの封印。
 - ①ここから大患難時代が始まる。
- (4) 7章は、挿入句である。
 - ①144,000人のユダヤ人による世界宣教
 - ②大患難時代の殉教者たち
- (5) 8章で、第7の封印が解かれる。
 - ①6章の続きが始まる。
 - ②第7の封印が最も重要な封印である(8:1～19:10)。
 - ③そこには、7つのラッパの裁きと、7つの鉢の裁きが含まれている。
- (6) 7つのラッパの裁きの特徴
 - ①前半の4つ(8章)は、人類を取り巻く自然界に対する裁きである。

*ここでの裁きとエジプトに下った裁きには、類似性がある(出7～12章)。
 - ②後半の3つ(9章以降)は、人類そのものに対する裁きである。

2. アウトライン

イントロダクション:7人の天使たち(1～6節)

- (1) 第1のラッパ(7節)
- (2) 第2のラッパ(8～9節)
- (3) 第3のラッパ(10～11節)
- (4) 第4のラッパ(12～13節)

3. 結論:

- (1) 神から与えられている祝福について
- (2) 裁きと悔い改めについて

ラッパの裁きについて学ぶ。

イントロダクション：7人の天使たち (1~6節)

1. 1節

Rev 8:1 小羊が第七の封印を解いたとき、天に半時間ばかり静けさがあった。

- (1) 第7の封印を解くのも、子羊である。
 - ①すぐに何かが起こるのではなく、静寂があった。
- (2) 半時間ばかりの静けさ
 - ①歓喜の歌の後の大休止である。
 - ②この静寂は、長い時間続くものではない。
 - ③次に示される幻の厳粛さを示している。
 - ④裁判官が判決を下す前の静寂に似ている。

2. 2節

Rev 8:2 それから私は、神の御前に立つ七人の御使いを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。

- (1) 神の御前に立つ7人の天使たち
 - ①字義通りに解釈するのがよい。
 - ②高い地位に置かれた天使たちである。
 - ③ルカ1:19

Luk 1:19 御使いは答えて言った。「私は神の御前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。

- (2) 彼らに7つのラッパが与えられた。
 - ①7人という数字は、7つのラッパの裁きと同数である。
 - ②7つのラッパの裁きを実行するために神によって任命された天使たちである。
- (3) 旧約聖書におけるラッパの使用法
 - ①集会を招集するために
 - ②戦争の際に兵士を導くために
 - ③祭りの開始を知らせるために

- (4) 黙示録では、神の裁きのしるしとして天使たちがラッパを吹く。

3. 3~4節

Rev 8:3 また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。

Rev 8:4 香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。

(1) もうひとりの天使

- ①7人の天使たちとは別の天使が登場した。
- ②彼の役割は、神の御前に香を炊くことである。

(2) 香とは、すべての聖徒たちの祈りである。

- ①「たくさんの香」とは「聖徒の祈り」である。
 - *文脈上、大患難時代の聖徒たちの祈りである(第5の封印の聖徒たち)。
- ②神の復讐が行われ、神の義がなることを求める祈りである。
- ③その祈りが、香として神の御前に立ち上った。
- ④その祈りが聞かれるのが、7つのラッパの裁きである。
- ⑤祈りは、天の視点から見ると神の御前に立ち上る「香」である。

(3) もうひとりの天使とは誰か。

- ①これをキリストと解釈する人がいる。
- ②そうではないだろう。
 - *黙4~5章以降、キリストは裁き主としてすべてを支配しておられる。
 - *執りなし手としての役割は終わっている。

4. 5~6節

Rev 8:5 それから、御使いは、その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。すると、雷鳴と声といわずまと地震が起こった。

Rev 8:6 すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。

(1) 御使いは、香炉を火で満たし、それを地に投げつけた。

- ①香炉は、神の怒りの象徴である。
- ②聖徒たちの祈りが聞かれたのである。
- ③地に大異変が起こった。

(2) それを合図に、7人の天使たちがラッパを吹く用意をした。

- ①つまり、7つのラッパの裁きが下る舞台が整ったということである。

I. 第1のラッパ (7節)

1. 7節

Rev 8:7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雹と火とが現れ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。

(1) 地上の植物界に下る裁き

- ①地上の三分の一が焼ける。作物も焼けたはずである。
- ②木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまう。

(2) この裁きをもたらすもの

- ①血の混じった雹と火が現れ、地上に投げられた。
- ②エジプトに下った第7の災害 (出9:18~26)
 - *雹と火が降り、植物界がことごとく打たれた。
 - *野にいた家畜や人間も打たれて死んだ。
- ③この裁きも、字義通りに解釈すべきである。

II. 第2のラッパ (8~9節)

1. 8~9節

Rev 8:8 第二の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血となった。

Rev 8:9 すると、海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、舟の三分の一も打ちこわされた。

(1) 海に下る裁き

- ①火山のようなものが海に投げ込まれた。
- ②その結果、海の三分の一が血となった。
- ③エジプトに下った第1の災害 (出7:14~22)
 - *ナイル川の水が血に変わり、川の魚は死んだ。
- ④海の中の生物の三分の一が死んだ。
- ⑤船の三分の一が壊された。
- ⑥火山のようなものが海に投げ込まれた場所を中心に、被害が広がった。

III. 第3のラッパ (10~11節)

1. 10~11節

Rev 8:10 第三の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちて来て、川々の三分の一とその水源に落ちた。

Rev 8:11 この星の名は苦よもぎと呼ばれ、川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。

(1) 水源に下る裁き

- ①川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。
- ②水は苦くなった。毒を含む水になったということ。
- ③その水を飲んで、多くの人が死んだ。

(2) 原因は、たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちたことである。

- ①星を象徴的に解釈すれば、天使が地に落ちたということである。
- ②その天使の名は、「苦よもぎ」である。
- ③出エジプト記では、マラの水が苦かったという記録がある(出15:23~25)。

(4) 預言解釈の注意点

- ①大患難時代を通過している人たちは、「苦よもぎ」がなんであるかを理解する。
- ②今の私たちには、100パーセントの理解はあり得ない。
- ③新聞記事に基づく聖書解釈の危険性
 - *チェルノブイリの事故直後、チェルノブイリは「苦よもぎ」だとされた。
 - *それを基に、終末が近いという議論が起こった。
 - *これは、新聞記事に基づく聖書解釈の典型的な例である。

IV. 第4のラッパ(12~13節)

1. 12節

Rev 8:12 第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。

(1) 天体に下る裁き

- ①太陽と月と星からの光の三分の一が失われた。
- ②これは、第5から第7のラッパの裁きについての警告である。

2. 13節

Rev 8:13 また私は見た。一羽の鷲が中天を飛びながら、大声で言うのを聞いた。「わざわいが来る。わざわいが、わざわいが来る。地に住む人々に。あと三人の御使いがラッパを吹き鳴

らそうとしている。」

- (1) 一羽の鷺が登場する。
 - ①神のメッセージを伝える天使である。
 - ②恐らくセラフィムのひとり(セラフ)であろう。
 - ③鷺は、「素早さ」と「裁き」の象徴である。裁きはすぐに来るということ。

- (2) 「わざわいが来る。わざわいが、わざわいが来る」
 - ①「わざわい」(woe)という言葉が3度出て来る。
 - ②第5~第7のラッパの裁きは、「わざわいの裁き」である。
 - *第5のラッパの裁き=第1のわざわいの裁き
 - *第6のラッパの裁き=第2のわざわいの裁き
 - *第7のラッパの裁き=第3のわざわいの裁き(7つの鉢の裁き)

結論:

1. 神から与えられている祝福について

- (1) 私たちは、神から与えられている祝福を当然のこととして考えている。
- (2) それらのものについて、神に感謝することもない。
- (3) 第1~第4のラッパの裁きでは、それが取り去られる。
 - ①自然界における植物の祝福
 - *木の美しさと効用
 - *緑の芝生の安らぎ
 - ②海の祝福
 - *海水が血となる。
 - *海に住むものの三分の一が死に絶える。
 - ③水の祝福
 - *水源と川の水が汚染される。
 - *水が苦くなり、飲むと死をもたらすものとなる。
 - *水の重要性は、ますます認識されつつある。
 - ④光の祝福
 - *天体は神の栄光を表している。
 - *詩19:1~2

Psa 19:1 天は神の栄光を語り告げ、／大空は御手のわざを告げ知らせる。

Psa 19:2 昼は昼へ、話を伝え、／夜は夜へ、知識を示す。

*ロマ1:20

Rom 1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

2. 裁きと悔い改めについて

- (1) 大患難時代における裁きは、先に行くほど厳しくなっていく。
- (2) 大患難時代の2つの目的
 - ①罪を裁き、地上から一掃すること
 - ②罪人を悔い改めに導くこと
- (3) 裁きの進展に伴って、人類は2つのグループに分かれて来る。
 - ①頑固になって回帰不能点を越える人たち
 - ②悔い改めを通して神に立ち返る人たち
- (4) 今も神は、私たちクリスチャンを同じ原則で導いておられる。
 - ①神の訓練が厳しくならない内に、早く悔い改めるのがよい。
- (5) ダビデの例
 - ①バテ・シェバと罪を犯してから悔い改めるまでに1年以上かかっている。
 - ②預言者ナタンがダビデのもとに来たのは、バテ・シェバがダビデの子を産んでからである(2サム12章)。
 - ③ダビデは神の訓練を受けた。

Psa 32:3 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、／私の骨々は疲れ果てました。

Psa 32:4 それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、／私の骨髓は、夏のひでりでかわききったからです。

④ダビデは、悔い改めによって平安を得た。

Psa 51:7 ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。／そうすれば、私はきよくなりましょう。／私を洗ってください。／そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。

Psa 51:8 私に、楽しみと喜びを、聞かせてください。／そうすれば、あなたがお砕きになった骨が、／喜ぶことでしょう。

「ラッパの裁き5」

黙9:1~11

1. はじめに

(1) 6章から9章までの流れ

①6章で、巻き物の封印が解かれる。最初の6つの封印。

*ここから大患難時代が始まる。

②7章は、挿入句である。

*144,000人のユダヤ人による世界宣教

*大患難時代の殉教者たち

③8章で、第7の封印が解かれる。

*第7の封印が最も重要な封印である(8:1~19:10)。

*そこには、7つのラッパの裁きと、7つの鉢の裁きが含まれている。

*前半の4つ(8章)は、人類を取り巻く自然界に対する裁きである。

*後半の3つ(9章以降)は、人類そのものに対する裁きである。

・第5のラッパの裁き=第1のわざわいの裁き

・第6のラッパの裁き=第2のわざわいの裁き

・第7のラッパの裁き=第3のわざわいの裁き

④9章で、第5と第6のラッパが吹かれる。

*第5のラッパは、神の裁きのターニングポイントとなるものである。

2. アウトライン

(1) 天から落ちた一つの星(1~2節)

(2) 穴から出てきた悪霊ども(3~6節)

(3) 悪霊どもの描写(7~11節)

3. 結論:「底知れぬ穴」について

(1) ハデス:新約聖書に11回

(2) 地獄(タータラス):2ペテ2:4

(3) 底知れぬ穴(アブソス):黙示録に7回

第5のラッパの裁きについて学ぶ。

I. 天から落ちた一つの星(1~2節)

1. 1節

Rev 9:1 第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。

- (1) 第5の御使いがラッパを吹き鳴らした。
 - ①第5のラッパの裁きは、第1のわざわいの裁きである。
 - ②神の裁きが劇的に激しくなるので、「わざわい」と呼ばれている。
 - *ギリシア語で「ウーアイ」(英語の woe, alas) である。
 - ③これまでで最悪の裁きが始まる。

(2) ヨハネは、一つの星が天から地に落ちるのを見た。

- ①これまでも星が地に落ちることがあった。
 - *第6の封印の裁き(6:12~17)
 - *第4のラッパの裁き(8:12)
- ②ここでの星は、実際の星ではなく、サタンを指す。
- ③「落ちる」は、完了形の動詞である。すでに落ちているのである。
- ④ルカ10:18に記されたイエスのことばは、預言的なものである。

Luk 10:18 イエスは言われた。「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。

⑤黙12:9は、サタンが患難時代の始まりに地上に落とされたことを示している。

Rev 12:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

- (3) その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。
 - ①「その星には」(新改訳) = 「to him」(KJV, ASV)
 - ②「底知れぬ穴」(新改訳) = アブソス(ギリシア語)
 - *悪霊どもが閉じ込められている場所
 - ③サタンにアブソスを開くかぎが与えられた。
 - *閉じ込められている悪霊どもを解放する力が与えられた。

2. 2節

Rev 9:2 その星が、底知れぬ穴を開くと、穴から大きな炉の煙のような煙が立ち上り、太陽も空も、この穴の煙によって暗くなった。

- (1) サタンがそのかぎを用いて、アブソスに閉じ込められていた悪霊どもを解放した。
 - ①立ち上った煙は、霊的墮落を暗示している。
 - ②太陽も空も、この煙によって暗くなった。

(2) これで、第5のラッパの裁きの内容が、サタンと悪霊どもの攻撃であることが明らかになった。

II. 穴から出てきた悪霊ども (3～6 節)

1. 3 節

Rev 9:3 その煙の中から、いなごが地上に出て来た。彼らには、地のさそりの持つような力が与えられた。

(1) その煙の中から、いなごが地上に出てきた。

- ①これは、通常のいなごではない。
- ②地のさそりの持つような力が与えられた。
- ③いなごには、さそりのような力はない。
- ④いなごの大軍は、悪霊どもである。

2. 4～5 節

Rev 9:4 そして彼らは、地の草やすべての青草や、すべての木には害を加えないで、ただ、額に神の印を押されていない人間にだけ害を加えるように言い渡された。

Rev 9:5 しかし、人間を殺すことは許されず、ただ五か月の間苦しめることだけが許された。その与えた苦痛は、さそりが人を刺したときのような苦痛であった。

(1) 悪霊どもを「いなご」にたとえることの聖書的背景

- ①聖書時代だけでなく、今の時代においても、いなごの害は恐れられている。
- ②いなごは、緑色の植物を食い尽くし、その地に飢饉をもたらす。
- ③かつて神は、いなごの害を用いてエジプトを裁かれた (出 10 : 12～20)。
- ④ヨエルは、いなごの害と神の裁きを関連付けている (ヨエ 1 : 4～7)。

(2) 彼らは、あることを言い渡された。

- ①神が命じたのであろう。
- ②地上の植物には害を加えてはならない。通常のいなごの動きとは異なる。
- ③額に神の印を押されていない人間にだけに害を与える。
 - *これまでのラッパの裁きでは、自然環境が害を受けた。
 - *ここから、人間に直接的に害が及ぶ。
- ④144,000人のユダヤ人と、彼らの伝道によって救われた人たちは守られる。
 - *額に押された神の印は、目に見えるものではない。
- ⑤これは、未信者たちの上を下る裁きである。

(3)ただし、人間を殺すことは許されなかった。

- ①苦しめるだけである。
- ②彼らが人間に与える苦痛は、さそりに刺されたときのような苦痛であった。
- ③それが5ヶ月の間続く。
 - *文字通り、150日間続くとは解釈すべきである。
 - *通常は、いなごは5月から9月にかけての5ヶ月間に活動する。
- ④5ヶ月という期間は、苦しみが長期にわたることを示している。

3. 6節

Rev 9:6 その期間には、人々は死を求めるが、どうしても見いだせず、死を願うが、死が彼らから逃げて行くのである。

(1)人々は、死を求めるほどの苦しみを経験する。

- ①これは、精神的、かつ肉体的苦痛である。
- ②彼らは死を願うが、死ぬことは許されない。
- ③悪霊の支配下にある人々は、自由に行動することができない。

III. 悪霊どもの描写 (7～11節)

1. 7～10節

Rev 9:7 そのいなごの形は、出陣の用意の整った馬に似ていた。頭に金の冠のようなものを着け、顔は人間の顔のようであった。

Rev 9:8 また女の髪のような毛があり、歯は、獅子の歯のようであった。

Rev 9:9 また、鉄の胸当てのような胸当てを着け、その翼の音は、多くの馬に引かれた戦車が、戦いに馳せつけるときの響きのようであった。

Rev 9:10 そのうえ彼らは、さそりのような尾と針とを持っており、尾には、五か月間人間に害を加える力があつた。

(1)悪霊どもには肉体はない。

- ①ヨハネは、「〇〇のようであった」という表現を多用している。
- ②この幻は、悪霊どもが勝利者となることを描写している。
- ③神による制約がなくなると、サタンと悪霊どもはその実相を表す。

(2)悪霊どもは、出陣の用意の整った馬に似ていた。

- ①人々を苦しめるために出て行こうとしていた。
- ②悪霊どもは、人間と動物をミックスしたような恐ろしい形状をしていた。

(3) ヨハネは自分が見た幻を描写しているが、その意味を解釈しなかった。

- ①この幻は、サタンと悪霊どもが不信者に対して持っている恐ろしいほどの力を示している。

2. 11節

Rev 9:11 彼らは、底知れぬ所の御使いを王にいただいている。彼の名はヘブル語でアバドンといい、ギリシヤ語でアポリュオンという。

(1) 悪霊どもには、王がいる。

- ①ヘブル語でアバドン、ギリシヤ語でアポリュオン。
- ②ともに、破壊者という意味である。
 - *人間の「魂」を破壊する者
- ③これは、サタンのことである。

(2) 2コリ 11:14

2Co 11:14 しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。

- ①現代においては、サタンはたびたび天使に変装する。
- ②大患難時代になると、仮面を取って本来の姿を現すようになる。

結論：「底知れぬ穴」について

1. ハデス：新約聖書に11回

(1) キリストの昇天以前のハデス

- ①ヘブル語でシオール、ギリシヤ語でハデス。
- ②死者の魂が行くところ。
- ③「良い場所」と「悪い場所」に分かれている。
 - *「良い場所」は、「パラダイス」、「アブラハムのふところ」とも言う。
 - *「悪い場所」は、「ハデス」そのものである。英語の「hell」がそれである。

(2) キリストの昇天以降のハデス

- ①「良い場所」は天に上げられ、今は空の状態である。
 - *エペ4:8~10
- ②「悪い場所」は、依然として存在している。
 - *そこには3つの異なった場所がある。
 - *ハデス、タータラス、アブソス

2. タータラス(地獄):2ペテ2:4

2Pe 2:4 神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。

(1) 創6章に、人間の娘たちを結婚した墮天使たちが出て来る。

- ①彼らは、タータラスに閉じ込められた。
- ②彼らが解放されることはない。

3. アブソス(底知れぬ穴):黙示録に7回

(1) アブソスは、悪霊どもが一時的に閉じ込められる場所である。

- ①ルカ8:30~31

Luk 8:30 イエスが、「何という名か」とお尋ねになると、「レギオンです」と答えた。悪霊が大ぜい彼に入っていたからである。

Luk 8:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんように願った。

(2) 時が来ると、悪霊どもはそこから解放される。

- ①黙9章では、それが起こっている。
- (3) 黙20章では、サタンがアブソスに閉じ込められる。
 - ①しかし、千年後にはそこから解き放たれる。
- (4) 人生を、行き先の知れない旅にしてはならない。

まとめ:「人はどこから来て、どこに行くのか」

- (1) クリスマン生活にとって、終末論は重要である。
- (2) と同時に、個人的終末論も重要である。
- (3) 人は、死後どこに行くのか。2つの選択肢しかない。
 - ①パラダイス
 - ②ハデス

「ラッパの裁き6」

黙9:12~21

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①6章から大患難時代が始まる。

*巻き物の封印が解かれる。最初の6つの封印。

②7章は挿入句である。

*144,000人のユダヤ人による世界宣教

*大患難時代の殉教者たち

③8章で第7の封印が解かれる。

*その内容が8:1~19:10まで続く。

*第7の封印の内容は、7つのラッパの裁きと7つの鉢の裁きである。

*ラッパの裁きの前半の4つ(8章)は、自然界に対する裁きである。

*ラッパの裁きの後半の3つ(9章以降)は、人類に対する裁きである。

・第5のラッパの裁き=第1のわざわいの裁き

・第6のラッパの裁き=第2のわざわいの裁き

・第7のラッパの裁き=第3のわざわいの裁き

④9章は第5と第6のラッパの裁きである。

*第5のラッパは、神の裁きのターニングポイントとなるものである。

*第6のラッパで、大患難時代の前半が終了する。

2. アウトライン

(1) これから来る2つのわざわいの裁き(12節)

(2) 4人の天使の解放(13~15節)

(3) 2億の軍勢(16~19節)

(4) 悔い改めない人々(20~21節)

3. 結論: 大患難時代の前半を通して起こっていること

(1) 世界の政治状況

(2) 144,000人のユダヤ人による世界大のリバイバル

(3) 2人の証人の働き

(4) エリヤの働き

(5) 偽教会バビロンの存在

第6のラッパの裁きについて学ぶ。

I. これから来る2つのわざわいの裁き(12節)

1. 12節

Rev 9:12 第一のわざわいは過ぎ去った。見よ。この後なお二つのわざわいが来る。

(1) 3つのわざわいの裁きがある。

- ①第1のわざわいは過ぎ去った。=第5のラッパの裁き
- ②なお2つのわざわいが来る。=第6と第7のラッパの裁き
- ③「わざわい」とは、不信者の大患難時代における状況である。

(2) 今日、サタンと悪霊どもの働きは制限されている。

- ①ラッパの裁きにおいては、サタンと悪霊どもの実相が明らかになる。
- ②歴史上初めて、不信者全員がサタンと悪霊によって苦しめられる。

II. 4人の天使の解放(13~15節)

1. 13~14節

Rev 9:13 第六の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前にある金の祭壇の四隅から出る声を聞いた。

Rev 9:14 その声がラッパを持っている第六の御使いに言った。「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」

(1) 第6のラッパの裁きが始まる。

①金の祭壇の四隅から声が出る。

*この裁きには、殉教した聖徒たちの祈りへの答えという側面がある。

②この声は、ラッパを持っている第6の御使いに命じる神の声である。

「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ」

(2) 4人の御使いが誰であるかを確定することは、この箇所を理解するために重要。

①この4人の御使いは、黙7章の4人の御使いとは異なる。

*黙7章の4人の御使いたちは、144,000人のユダヤ人たちの額に印が押されるまでは、裁きを開始しないように命じられた。

②この4人の御使いは、墮天使たちである。

③聖書には、聖なる天使が囚われている例は出てこない。

④「つながれている」という動詞の時制は完了形である。

*ある時点で、何かの罪を犯したためにつながれた。

*その状態が、継続している。

⑤「大川ユーフラテスのほとり」とは、今のイラクである。

*この地域は、伝統的に多くの偶像礼拝と偽宗教が誕生した場所である。

*彼らは、東からの侵略軍を指揮するようになる。

(3) 4人の墮天使たちが解き放たれるのは、第6のラッパの裁きを実行するため。

2. 15節

Rev 9:15 **すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。**

(1) 神が裁きのタイミングを定めておられる。

①「定められた時、日、月、年」とは、裁きの期間を示したものではない。

②神の主権を示している。

(2) ヨナ1:17

Jon 1:17 **【主】は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。**

①魚は、不従順なヨナを裁くために備えられた。

②同じように、4人の墮天使たちは、人類の3分の1を殺すために備えられた。

(3) 人類の3分の1が殺される。

①キリストの再臨の前に起こる出来事の中で、最も悲惨なもののひとつである。

②第4の封印の裁き(黙6:7~8)で、人類の4分の1が死んだ。

③ここでは、生き残った「4分の3」の「3分の1」が殺される。

④ $3/4 \times 2/3 = 6/12 = 1/2$

⑤第6のラッパの裁きが終わると、人類は半分しか生存していないことになる。

⑥ノアの洪水以来、最大規模の裁きが下るのである。

Ⅲ. 2億の軍勢(16~19節)

1. 16節

Rev 9:16 **騎兵の軍勢の数は二億であった。私はその数を聞いた。**

(1) 騎兵の軍勢の数は2億であった。

①その数は数えることが不可能である。

②ヨハネは、その数を勝手に作り出したのではなく、聞いたのである。

(2) これは、実際に2億の兵士たちからなる軍勢であるとする人たちがいる。

①中国の兵士か。

* (Time, May 21 1965, p. 35)

②インドの兵士か。

③これは、「新聞記事に基づく釈義」である。

(3) 正しい解釈は、悪霊の軍勢と考えることである。

①第5のラッパの裁きでは、悪霊(いなご)の数は明記されていなかった。

②第6のラッパの裁きでは、悪霊は2億と明示されている。

2. 17節

Rev 9:17 私が幻の中で見た馬とそれに乗る人たちの様子はこうであった。騎兵は、火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は、獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄とが出ていた。

(1) 騎兵と馬の描写

①中国兵の描写ではあり得ない。

②これを近代戦の預言と解釈する人もいる。

③これは、2億の悪霊どもの軍勢の描写である。

3. 18～19節

Rev 9:18 これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。

Rev 9:19 馬の力はその口とその尾とにあつて、その尾は蛇のようであり、それに頭があつて、その頭で害を加えるのである。

(1) 馬の威力が強調されている。

①その口から出ている火と煙と硫黄によって人を殺す。

*3つの災害のことであろう。

②尾は蛇のようで頭があつて、それで害を加える。

(2) 人類の3分の1が殺される。

IV. 悔い改めない人々 (20～21節)

1. 20～21節

Rev 9:20 これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、

Rev 9:21 その殺人や、魔術や、不品行や、盗みを悔い改めなかった。

(1) このような裁きを経験しながら、生き残った人々は悔い改めなかった。

①人類の罪と墮落の深さを示している。

(2) 彼らは宗教熱心である。

①偶像礼拝を継続する。

②悪霊ども、金、銀、銅、石、木で造られた偶像を拝み続ける。

③教会が携挙されているので、偽の宗教が蔓延する。

(3) 彼らは罪の生活を続ける。

①殺人、魔術、不品行、盗みを悔い改めない。

結論：大患難時代の前半を通して起こっていること

1. 世界の政治状況

(1) 10人の王による世界支配

(2) 現在、世界には200ヶ国前後の国が存在する。

(3) 将来統合されて、世界は10ヶ国に分割される。

(4) ダニ7:22~24の預言(10本の角の預言)

2. 144,000人のユダヤ人による世界大のリバイバル

(1) 黙7章で、すでに見た。

(2) 彼らの額には、印が押されている。

3. 2人の証人の働き

(1) 2人の証人が復活する。

(2) これは、ヨナのしるしの第3番目のものである。

(3) 黙11章で学ぶ。

4. エリヤの働き

(1) 預言者エリヤが奉仕する。

(2) マラ4:5~6

Mal 4:5 見よ。わたしは、／【主】の大いなる恐ろしい日が来る前に、／預言者エリヤをあなただちに遣わす。

Mal 4:6 彼は、父の心を子に向けさせ、／子の心をその父に向けさせる。／それは、わたしが来て、／のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」

5. 偽教会のバビロン

- (1) 宗教組織としてのバビロンが存在する。
- (2) 黙17章で学ぶ。

まとめ

- (1) 第6のラッパの裁きは、恐れを生み出したが、悔い改めは生まなかった。
- (2) 聖霊による新生体験だけが、真の悔い改めを生む。

「小さな巻物」

黙 10 : 1～11

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①6章から大患難時代が始まる。

*巻き物の封印が解かれる。最初の6つの封印。

②7章は挿入句である。

③8章で第7の封印が解かれる。

*その内容が8 : 1～19 : 10まで続く。

*ラッパの裁きの前半の4つは、自然界に対する裁きである。

④9章は第5と第6のラッパの裁きである。

*第5のラッパは、神の裁きのターニングポイントとなるものである。

*第6のラッパで、大患難時代の前半が終了する。

(2) 今後の展望

①10章～14章は、挿入箇所である。

*物語の進展はなく、状況の説明が入る。

*7章と同じである。

*例外は、11 : 15～19（第7のラッパが吹かれる）だけである。

②10章は、苦難を通過する信者たちへの励ましのメッセージである。

2. アウトライン

(1) もうひとりの天使（1～4節）

(2) 世の終わりの宣言（5～7節）

(3) 小さな巻物を食す（8～11節）

3. 結論 : 黙 10 : 10

小さな巻物について学ぶ。

I. もうひとりの天使（1～4節）

1. 1節

Rev 10:1 また私は、もうひとりの強い御使いが、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。

その頭上には虹があって、その顔は太陽のようであり、その足は火の柱のようであった。

(1) 「もうひとりの強い御使い」

- ①もうひとり「アロス」である。同質の別のもの。
 - ②これまでに登場した天使たちとは別の天使である。
 - *第6のラッパを吹く天使(9:13)
 - *第7のラッパを吹く天使(11:15)
- (2) この天使については、さまざまな解釈がある。
- ①この天使は、キリストである。
 - *その風貌、その権威は、キリストであることを示している。
 - *しかし、ヨハネはこの天使を礼拝していない。
 - *黙1:17では、キリストを礼拝している。
 - *この天使は、大患難時代の間期に天から地に降りて来る。
 - *キリストの再臨は、大患難時代が終わってから起こる。
 - ②この天使は、ミカエルである。
 - *黙12章では、ミカエルという名が出ている。
 - *ミカエルは、悪魔や悪霊どもと戦う。
 - *黙10章の天使も、天使長ミカエルに違いない。
 - ③この天使は、偉大な権威と任務を委ねられた天使である。
 - *神は、ご自身の計画を実行するために天使たちをお用いになる。
- (3) 天使の描写
- ①ヨハネは、非常に絵画的にこの天使の姿を描写している。
 - *頭上に虹、顔は太陽のよう、足は火の柱のよう。
 - ②この描写は、次に出て来る小さな巻物を紹介するための準備である。

2. 2～3節

Rev 10:2 その手には開かれた小さな巻き物を持ち、右足は海の上に、左足は地の上に置き、
Rev 10:3 獅子がほえるときのように大声で叫んだ。彼が叫んだとき、七つの雷がおのおの声を出した。

- (1) 小さな巻物
 - ①すでに開かれている。
 - ②黙5章では、子羊が7つの封印で封印された巻物を持っていた。
 - *封印が解かれるに従って、神の裁きの内容が明らかになる。
 - ③黙10章の小さな巻物は、7つの封印の巻物とは別のものである。
- (2) 右足は海の上に、左足は地の上に

①地を支配する権威を示している。

(3) 獅子がほえるときのように大声で叫んだ。

①7つの雷がおのおの声を出した。

*神の裁きの声を雷にたとえている。

*詩29篇には、「【主】の声」が裁きとの関連で7回出て来る。

②ヨハネは、その内容を理解した。

*次の節で、彼はそれを書き留めようとしたとなっている。

3. 4節

Rev 10:4 七つの雷が語ったとき、私は書き留めようとした。すると、天から声があつて、「七つの雷が言ったことは封じて、書きしるすな」と言うのを聞いた。

(1) 天からの声は、それを書き留めることを禁じた。

(2) ヨハネに幻が与えられている理由は、その内容(黙示録)を書き記すためである。

①神は人類に多くのことを啓示される。

②しかし、まだ時が来ていないという理由で、隠しておられることもある。

③黙10章でヨハネが聞いた内容は、彼だけのための啓示である。

II. 世の終わりの宣言(5~7節)

1. 5~6節 a

Rev 10:5 それから、私の見た海と地との上に立つ御使いは、右手を天に上げて、

Rev 10:6 永遠に生き、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方をさして、誓った。

(1) 御使いは、創造主を指して誓った。

①これもまた、この天使がキリストではないことの証拠である。

②誓いの内容は、次に出て来る。

(2) 創造主の描写

①永遠に生けるお方

②天と地と海、そして、その中にあるいっさいのものを創造された方

③神は、常にすべてを統治される主権者である。

2. 6b~7節

「もはや時が延ばされることはない。」

Rev 10:7 第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおりに成就する。」

- (1) 神の時が来たなら、神の計画はすみやかに実行に移される。
 - ①もう時は残されていない。
 - ②これは、大患難時代の聖徒たちにはグッドニュースである。

- (2) 第7のラッパから大患難時代の後半が始まる。
 - ①その内容は、7つの鉢の裁きである。
 - ②旧約聖書の預言者たちが預言していたことは、すべて成就する。
 - *それが「神の奥義」の内容である。
 - ③その中心は、千年王国(メシア的王国)である。
 - *神は罪人たちを裁かれる。
 - *キリストが再臨される。
 - *その後、地上に王国を設立される。

III. 小さな巻物を食す(8~11節)

1. 8~9節

Rev 10:8 それから、前に私が天から聞いた声が、また私に話しかけて言った。「さあ行って、海と地との上に立っている御使いの手にある、開かれた巻き物を受け取りなさい。」

Rev 10:9 それで、私は御使いのところに行って、「その小さな巻き物を下さい」と言った。すると、彼は言った。「それを取って食べなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。」

- (1) 前に天から聞いた声
 - ①黙4:1の声:「ここに上れ。この後、必ず起こる事をあなたに示そう」
 - ②その声は、御使いの手から開かれた巻物を受け取るように命じた。
 - ③ヨハネは、その命令に従う。

- (2) 御使いは、それを取って食べるように命じた。
 - ①腹には苦い。
 - ②口には蜜のように甘い。

2. 10節

Rev 10:10 そこで、私は御使いの手からその小さな巻き物を取って食べた。すると、それは口には蜜のように甘かった。それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。

- (1) ヨハネの体験
 - ①最初は、蜜のように甘かった。
 - ②腹に入ると、苦くなった。
- (2) この体験の意味は、解説されていない。
 - ①意味があるのは、間違いない。

3. 11 節

Rev 10:11 そのとき、彼らは私に言った。「あなたは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなければならない。」

- (1) ヨハネは、再度、預言するように命じられた。
 - ①もろもろの民族、国民、国語、王たちについて
- (2) その成就が、黙示録の残りの部分である。

結論：黙 10：10

Rev 10:10 そこで、私は御使いの手からその小さな巻き物を取って食べた。すると、それは口には蜜のように甘かった。それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。

はじめに

- ①エレ 15：16～18
「楽しみとなり、心の喜びとなった」
- ②エゼ 2：9～10、3：1～4、14
「口の中で蜜のように甘かった」
「苦々しい思いで出て行った」

1. 口には蜜のように甘い。

- (1) 聖書研究の喜び
 - ①預言について学ぶ喜び
 - ②特に、黙示録を学ぶ喜び
 - ③ヨハネは、パトモス島にいながらこの喜びを感じた。
- (2) 喜びの内容
 - ①信者は、神の愛と恵みによって生かされている。
 - ②神は、人類の罪を最終的に処理し、永遠の命を与えてくださる。

- ③神は、悪を完全に裁き、悪魔と悪霊たちに勝利される。
- ④神は、地上からいっさいの患難と苦しみを取り除かれる。
- ⑤神は、御子イエスを地上に送り、千年王国を設立される。

2. 腹に入ると、苦い。

- (1) 学んだことを黙想していると、苦味を感じるようになる。
 - ①ユダヤ教にも背教のキリスト教にも、神の裁きが下る。
 - ②不信者の上に、神の裁きが下る。
 - ③永遠の祝福と、永遠の滅びの違いは、現実存在する。

3. 私たちへの適用

- (1) 『レフトビhind』(Left Behind)という長編小説
 - ①ティム・ラヘイ、ジェリー・ジェンキンズの共著
 - ②1995年に最初の小説が発売された。
 - ③全米で6,500万部を売り上げたベストセラーである。
 - ④日本語訳はいのちのことば社から刊行されている。
- (2) フルクテンバウム師とティム・ラヘイとは古くからの友人である。
 - ①ティム・ラヘイの執筆動機は、救霊である。
 - ②彼は、小説を書くずっと前から、預言研究が好きだった。
 - ③預言研究が、彼の伝道の原動力となった。
 - ④彼は、聖書預言の甘さと苦さを経験した伝道者である。
- (3) 世界の趨勢は、ナショナリズムに向かいつつある。
 - ①私たちのアイデンティティは、キリストの内にある。

「ふたりの証人の活動」

黙 11 : 1~6

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①9章は第5と第6のラッパの裁きである。

*第5のラッパは、神の裁きのターニングポイントとなるものである。

*第6のラッパで、大患難時代の前半が終了する。

②10章~14章は、挿入箇所である。

*物語の進展はなく、状況の説明が入る。

*7章と同じである。

*例外は、11 : 15~19 (第7のラッパが吹かれる) だけである。

(2) 黙示録全体の中で11章が最も難解な章である。

①注解書を読み比べると、さまざまな解釈があることが分かる。

②解釈法の違いが、さまざまな解釈を生み出している。

*字義通りの解釈か、象徴的、あるいは比喩的解釈か。

*比喩的解釈を採用するなら、あらゆる解釈の可能性に扉を開くことになる。

③私たちは、字義通りの解釈を一貫して行っている。

*「聖所と祭壇」は、地上にできる文字通りの聖所と祭壇である。

*「大きな都」(大いなる都)(黙 11 : 8)とは、エルサレムのことである。

*「ふたりの証人」とは、ふたりの人間のことである。

*「三日半の間」(黙 11 : 9)とは、文字通り三日半のことである。

*「地震」(黙 11 : 13)とは、文字通りの地震である。

*「七千人が死に」(黙 11 : 13)とは、文字通り七千人である。

④字義通りに解釈を行えば、細部に相違点があっても、大筋では一致できる。

2. アウトライン

(1) 神の測りざお (1~2 節)

(2) ふたりの証人の活動 (3~6 節)

3. 結論

(1) 第3神殿

(2) ふたりの証人

ふたりの証人の活動について学ぶ。

I. 神の測りざお(1~2節)

1. 1節

Rev 11:1 それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。
「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。」

(1) 「杖のような測りざお」

- ①これは、ヨルダン川の岸辺に育つ葦で、成長すると6メートルほどにもなる。
- ②それが「測りざお」として与えられた。
- ③聖書時代においては、長くて、軽くて、堅い葦が、測りざおとして使用された。

(2) ヨハネは命令を受けた。

- ①「こう言う者」とは、天使であろう。
- ②「神の聖所と祭壇」を測れ。
 - *第2神殿は、紀元70年に滅びた。
 - *ヨハネが黙示録を執筆している時点では、神殿は建っていない。
 - *ここに登場する神殿は、大患難時代に建っている第3神殿である。
 - *「聖所」とは祭司だけが入ることのできる空間で、至聖所と聖所からなる。
 - *「祭壇」は聖所の外に置かれたもので、イスラエル人なら犠牲のいけにえを持って近づくことができる。
- ③「そこで礼拝している人々」の数を数えよ。

(3) 測ることの意味

①ゼカ2:1~2

Zec 2:1 私が目を上げて見ると、なんと、ひとりの人がいて、その手に一本の測り綱があった。

Zec 2:2 私がその人に、「あなたはどこへ行かれるのですか」と尋ねると、彼は答えた。「エルサレムを測りに行く。その幅と長さがどれほどあるかを見るために。」

*神の裁きと関連性がある。神がエルサレムの状態を吟味しておられる。

②エゼ40:1~49

*千年王国の神殿が測られている。

③黙21:15~17

*新しいエルサレムが測られている。

④以上の事例から、「測る」とは神の所有権を示す行為であることが分かる。

⑤また、神による吟味を示す行為でもある。

*神殿も町も人々も神の吟味を受け、背教の状態にあることが明らかになる。

2. 2節

Rev 11:2 聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけません。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。

(1) 「聖所の外の庭」は、異邦人の庭と呼ばれる。

- ①そこは測ってはいけません。
- ②その理由は、外庭は異邦人に与えられている(委ねられている)からである。
- ③測らないことによって、神が異邦人を拒否しておられることを表現している。

(2) 異邦人は、聖なる都を42ヶ月(大患難時代の後半の3年半)の間踏みにじる。

- ①「聖なる都」とは、エルサレムのことである。
- ②「42ヶ月の間」とは、大患難時代の後半の3年半のことである。

(3) エルサレムが蹂躪されてきた歴史

- ①アッシリヤ
- ②バビロン
- ③メド・ペルシヤ
- ④ギリシア
- ⑤ローマ

(4) 大患難時代においては、反キリストとその勢力がエルサレムを蹂躪する。

①2テサ2:4

2Th 2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

②マタ24:15~16

Mat 24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

Mat 24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

③ダニ9:27

Dan 9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

④ダニ12:11

Dan 12:11 常供のささげ物が取り除かれ、荒らす忌むべきものが据えられる時から千二百九十日がある。

⑤以上のことから分かる内容

- *反キリストは、7年の中間で平和条約を破り、自分が神だと宣言する。
- *反キリストは、自分の像(「荒らす憎むべきもの」)を神殿の中に安置する。
- *この時、ユダヤ人たちは荒野に避難し、そこで守られる。

II. ふたりの証人の活動 (3~6 節)

1. 3 節

Rev 11:3 それから、わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは荒布を着て千二百六十日の間預言する。」

(1) 「わたし」

- ①天使が神の代理人として語っているのであろう。
- ②あるいは、父なる神のことばか、キリストのことばである可能性もある。
- ③いずれにしても、その啓示は神から来ている。

(2) ふたりの証人の活動

- ①彼らの活動は、神によって許可されたものである。
- ②活動期間は、1260 日間である。
 - *大患難時代の前半の3年半
 - *彼らは大患難時代の間中期に殺される。
 - *彼らの活動期間は、144,000 人のユダヤ人の活動期間と同じである。
- ③活動範囲は、エルサレムに限定される。
- ④彼らは、悔い改めのメッセージを伝える。
 - *荒布を着ているのは、嘆きの象徴である。
 - *彼らは、神の裁きが近づいていることを伝え、悔い改めを勧める。

2. 4 節

Rev 11:4 彼らは全地の主の御前にある二本のオリーブの木、また二つの燭台である。

(1) 彼らの活動の目的が比喩的言葉で語られる。

- ①ヨハネは、読者が旧約聖書を知っていることを前提に書いている。
- ②ゼカ 4 章に、2 本のオリーブの木と一つの燭台の幻が出て来る。
 - *燭台は、イスラエルのことである。
 - *油を提供する 2 本のオリーブの木は、ゼカリヤの時代の祭司的指導者ヨシユアと政治的指導者ゼルバベルを指すと考えられる。
- ③2 本のオリーブの木の究極的成就是、大患難時代にやって来る。

④黙 11 : 3~13 に登場するふたりの証人がそれである。

(2) 黙 11 章では、2 人の証人は、2 本のオリーブの木であり 2 つの燭台である。

①彼らは、聖霊に満たされたオリーブの木となる。

②彼らは、大患難時代において、暗闇を照らす働きをする。

*神の真理を伝える働きをする。

3. 5~6 節

Rev 11:5 彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。

Rev 11:6 この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じる力を持っており、また、水を血に変え、そのうえ、思うままに、何度でも、あらゆる災害をもって地を打つ力を持っている。

(1) ふたりの証人に奇跡的な力が付与される。

①彼らに害を加えようとする者は、殺される。

②彼らの口から火が出る。

*聖書では、火は神の怒りを示す。

Nah 1:6 だれがその憤りの前に立ちえよう。／だれがその燃える怒りに耐えられよう。／その憤りは火のように注がれ、／岩も主によって打ち砕かれる。

Jer 4:4 ユダの人とエルサレムの住民よ。／【主】のために割礼を受け、心の包皮を取り除け。／さもないと、あなたがたの悪い行いのため、／わたしの憤りが火のように出て燃え上がり、／消す者もないだろう。」

③雨を降らないようにしたり、水を血に変えたり、災害をもたらしたりすることができる。

*これは、神の裁きを地上にもたらす働きである。

④それまでに登場した預言者の誰よりも多くの力が付与される。

(2) 次回は、その彼らが殺されるということについて学ぶ。

①神の時が来るまでは、彼らは安全に守られる。

結論：

1. 第3神殿

(1) 大患難時代後半の3年半が始まる時点では、第3神殿は建っている。

①いつ建設されるかは預言されていない。

- (2) 第3神殿再建に向けた動きが現在進行中である。
 - ①エルサレムにある Temple Institute がその中心にある。
 - ②西壁を見下ろす位置に復元された金のメノラーが置かれている。
- (3) 緊急性と平常心の必要性
 - ①センセーショナルになる必要はない。
 - ②今の政治情勢を見ていると、神殿の建設がすぐに始まるとは思えない。
 - ③私たちとしては、いつ携挙が起こってもよいような生き方をすべきである。

2. ふたりの証人

- (1) 誰なのか。
 - ①イスラエルと教会
 - *これは比喩的解釈である。
 - ②旧約聖書と新約聖書
 - *これも比喩的解釈である。
 - ③モーセとエリヤ
 - *彼らが行う奇跡が、モーセとエリヤのそれに似ている。
 - *モーセは2度死ぬのかという問題がある。
 - ④エノクとエリヤ
 - *ともに生きてまま天に上げられた。
 - *彼らは、死ぬことのない体に変えられている。
 - *歴史上の人物が登場する際には、名前が出て来る。
 - ⑤大患難時代の間には生きている2人のユダヤ人であろう。
 - *2人、ないし3人の証人による証言(申17:6)
- (2) 活動期間
 - ①活動期間は、1260日間である。
 - *大患難時代の前半の3年半
 - ②彼らは大患難時代の間中期に殺される。
 - ③使命を終えるまでは、神の守りによって生かされている。
 - (例話) 0姉は、昨年12月23日(金)の夜召天、27日(火)葬儀。

「ラッパの裁き7」

黙 11 : 7~19

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10章~14章は、挿入箇所である。

*物語の進展はなく、状況の説明が入る。

*7章と同じである。

*例外は、11 : 15~19（第7のラッパが吹かれる）だけである。

(2) 黙示録全体の中で11章が最も難解な章である。

①解釈法の違いが、さまざまな解釈を生み出している。

*字義通りの解釈か、象徴的、あるいは比喩的解釈か。

②私たちは、字義通りの解釈を一貫して行っている。

③「聖書が聖書を解釈する」という原則も重要である。

④字義通りに解釈を行えば、細部に相違点があっても、大筋では一致できる。

2. アウトライン

(1) ふたりの証人の死（7~10節）

(2) ふたりの証人の復活（11~13節）

(3) 第7のラッパ（14~19節）

3. 結論

(1) 黙 11 : 13

(2) 大患難時代における神の恵み

ふたりの証人の復活とラッパの裁き7について学ぶ。

I. ふたりの証人の死（7~10節）

1. 7節

Rev 11:7 **そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。**

(1) ふたりの証人の死のタイミング

①「あかしを終えると」

②使命が与えられているうちは、彼らは死ななかつた。

③使命が終わると、神は、敵が彼らを殺すことを許された。

④ヨハ19:30と同じ動詞。「テレオウ」

Joh 19:30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。

(2) ふたりの証人の死の原因

①「底知れぬ所から上って来る獣」とは、反キリストのことである。

②「底知れぬ所」とは、アビス(アブソス)である。

③反キリストは一度死ぬけれども、復活する(黙13:3~4)。

*反キリストの死と復活については、先に行ってから詳述する。

④復活した反キリストが、ふたりの証人を殺すのである。

*それまで誰もできなかったことをするのである。

⑤獣(反キリスト)という言葉は、黙示録に10回出て来る。

*13:1、14:9、11、15:2、16:2、17:3、13、19:20、20:10

2. 8~9節

Rev 11:8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。

Rev 11:9 もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。

(1) 神の敵にとっては、この勝利は画期的で記念すべきものである。

①それが、ふたりの証人の死体が町の大通りにさらされる理由である。

②その町は、大きな都(大いなる都)、つまりエルサレムである。

*「大いなる都」とは、人間の視点である。

③主イエスが十字架につけられた都である。

(2) 訳語の比較

「霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都」(新改訳)

「たとえばソドムとかエジプトとかと呼ばれる大きな都」(新共同訳)

「ソドムや、エジプトにたとえられている大いなる都」(口語訳)

①エルサレムが墮落しているので、「ソドムやエジプトと呼ばれる」のである。

*これは、神の視点である。

*ソドムは、性的倒錯の罪を持った町である。

*エジプトは、神の民を迫害した国である。

(3) 「もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々」

- ①世界中の人たちが、三日半の間、彼らの死体をながめる。
- ②かつては、なぜこれが可能になるのか、疑問を感じる学者が多くいた。
- ③インターネット、フェイスブック、ツイッターなどで、これが可能になる。

(4) 「その死体を墓に納めることを許さない」

- ①軽蔑の行為である。
- ②申 21：22～23 は、これを禁じている。

3. 10 節

Rev 11:10 また地に住む人々は、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。それは、このふたりの預言者が、地に住む人々を苦しめたからである。

(1) 「地に住む人々」

- ①黙示録では、この言葉はほとんどテクニカルタームになっている。
 - * 携挙の後で地上に残された人々
 - * 不信者たち

(2) 彼らは、ふたりの証人の死を目撃し、歓喜する。

- ①パーティを開き、贈り物を交わす。
- ②その理由は、自分たちを苦しめていたふたりの預言者がいなくなったから。
- ③彼らは、神とその証人たちを恐れる必要がなくなった。
- ④反キリストこそ神であるとの認識が生まれた。
- ⑤黙示録に記録された「喜びの瞬間」は、ここだけである。
- ⑥しかし、神の証人が死んでも、彼らが伝えた真理は死なない。

II. ふたりの証人の復活（11～13 節）

1. 11～12 節

Rev 11:11 しかし、三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らに入り、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常に恐怖に襲われた。

Rev 11:12 そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。

(1) 全世界に広がる喜びは、恐怖に一転した。

- ①「三日半の後」は、文字通り三日半である。
- ②ふたりの証人は、「いのちの息」を吹き込まれ、自分の足で立ち上がった。
- ③それを見ていた人々は、神の力を認識したので、非常に恐怖に襲われた。

*インターネットでの実況中継

*ユーチューブでの動画再生

- (2) さらに、天からの声がした。
- ①人々は、さらに恐怖に襲われたことであろう。
 - ②「ここに上れ」という招きがあった。
 - ③ふたりの証人は、それに応答して、雲に乗って天に上った。
- (3) ふたりの証人の復活と昇天は、実にユニークなものである。
- ①これは、第1の復活ではない。
 - ②これは、携挙でもない。
 - ③これは、携挙と第1の復活(黙20章)の間に起こる出来事である。
 - ④これは、神を信じようとしない「地に住む人々」への「しるし」である。

2. 13節

Rev 11:13 そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた。

- (1) 大地震が起こった。
- ①文字通りの大地震である。
 - ②エルサレムの10分の1が破壊された。
 - ③7千人が死んだ。
 - ④これは、エルサレムに下った神の裁きである。
- (2) 「生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた」
- ①生存者が感じた恐怖は、彼らを信仰に導く畏怖の念である。
 - ②「天の神」という言葉は、黙示録に2回出て来る(16:11)。
 - ③旧約聖書では、「天の神」は偶像と区別するための用語である。
 - ④ここでは、「天の神をあがめた」は、獣の礼拝との対比で語られている。
- *これが救いに至る信仰の始まりとなる。

Ⅲ. 第7のラッパ(14~19節)

1. 14節

Rev 11:14 第二のわざわいは過ぎ去った。見よ。第三のわざわいがすぐに来る。

- (1) ここまでで第2のわざわい(第6のラッパ)が終わった。

- ①次に来るのは、第3のわざわいである。
- ②これが第7のラッパである。

2. 15節

Rev 11:15 第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。／「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」

- (1) ラッパの裁き7が、最も厳しい裁きである。
 - ①その中には、7つの鉢の裁きが含まれる。

- (2) 第7のラッパが鳴ると、ヨハネは天に大きな声々が起こるのを聞いた。
 - ①それまでのラッパの裁きでは、ひとつの声だけが聞こえてきた。
 - ②第7のラッパの後に聞こえて来たのは、「シンフォニー」である。

- (3) 「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される」
 - ①これは、父なる神とキリストの勝利を歌うものである。
 - ②7つの鉢の裁きが起こる前に、なぜキリストの勝利を歌うことができるのか。
 - ③これは預言的宣言である。
 - *7つの鉢の裁きがキリストの再臨を導く。
 - *キリストの再臨により、千年王国が成就する。
 - ④旧約聖書の預言
 - *エゼ 21:26~27
 - *ダニ 2:35、44、4:3、6:26、7:14、26~27
 - *ゼカ 14:9

3. 16~18節

Rev 11:16 それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、地にひれ伏し、神を礼拝して、

Rev 11:17 言った。／「万物の支配者、今いまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。

Rev 11:18 諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」

- (1) 24人の長老たちは、これまでに同じような文脈で7回登場している。

- ①彼らは、教会である。
- ②彼らは、神がその権威を示し、地上の王となられたことを感謝している。
- ②これは、キリストの再臨を待望した賛美である。

(2) 黙 11 : 18 は、詩 2 : 7~9 の成就である。

Psa 2:7 「わたしは【主】の定めについて語ろう。／主はわたしに言われた。／『あなたは、わたしの子。／きょう、わたしがあなたを生んだ。

Psa 2:8 わたしに求めよ。／わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、／地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。

Psa 2:9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、／焼き物の器のように粉々にする。』

3. 19 節

Rev 11:19 それから、天にある、神の神殿が開かれた。神殿の中に、契約の箱が見えた。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。

(1) これは、「7つの鉢の裁き」が始まる前の天における序曲である。

- ①焦点になっているのは、天における神殿である。
- ②黙 15 章で、その内容が詳しく説明される。
 - *天における神殿の状態がどうなっているか。

(2) 12~14 章は、挿入箇所の子続きである。

- ①「7つの鉢の裁き」の前に続けて起こる出来事を解説している。
- ②ラッパの裁き7の内容は、黙 16 : 1~21 で解説される。

結論 :

1. 黙 11 : 13

Rev 11:13 そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた。

(1) 生き残った人々は、天の神をあがめた。

- ①ふたりの証人の復活と、大地震は、神の力の「しるし」となった。
- ②エルサレムの住民たちの多くが、天の神をあがめた。
 - *天の神の栄光をたたえた (新共同訳)。
 - *天の神に栄光を帰した (口語訳)。

- ③全員ではなく。
- ④これは、救いに至る第一歩となった。

(2) ユダヤ人は、大患難時代の最後に民族的救いを経験するようになる。

①黙11:13は、その先駆けとなる出来事である。

(3) ふたりの証人の活動の結果

①ユダヤ人たちは、救いに向かって動き始める。

②異邦人たちは、反キリストについて行く。

2. 大患難時代における神の恵み

(1) 反キリストと偽預言者の活動により、偽りの宗教が宣伝される。

(2) しかし、144,000人の伝道とふたりの証人の証しにより、福音が伝えられる。

(3) その結果、大患難時代にも救われる人たちが出る。

(4) エゼ18:32

Eze 18:32 わたしはだれの死をも喜ばない。お前たちは立ち帰って、生きよ」と主なる神は言われる。

(5) エゼ33:11

Eze 33:11 彼らに言いなさい。わたしは生きている、と主なる神は言われる。わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることが喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。

(6) マタ25:31~33

Mat 25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。

Mat 25:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、

Mat 25:33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。